

# 土地履歴調査

[山口・防府地区,北九州地区,福岡地区,大分・別府地区]

## 調査成果の利活用事例集

1. テーマ別利活用事例
2. 地域別の土地履歴

平成 28 年 11 月

国土交通省 国土政策局 国土情報課

 **注意 ! 必読のこと !**

本資料中の解説文は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。

実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。



# 1. テーマ別利活用事例

防災

開発と地形条件

観光

文化遺産

産業

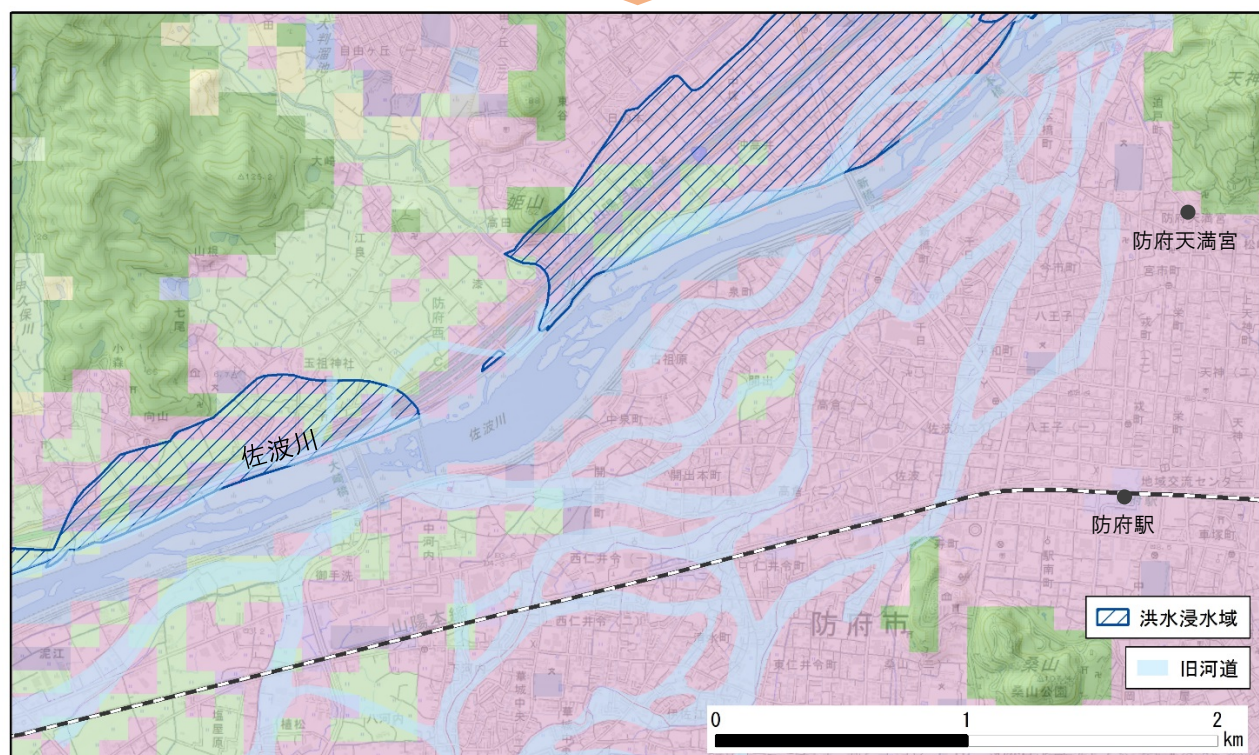
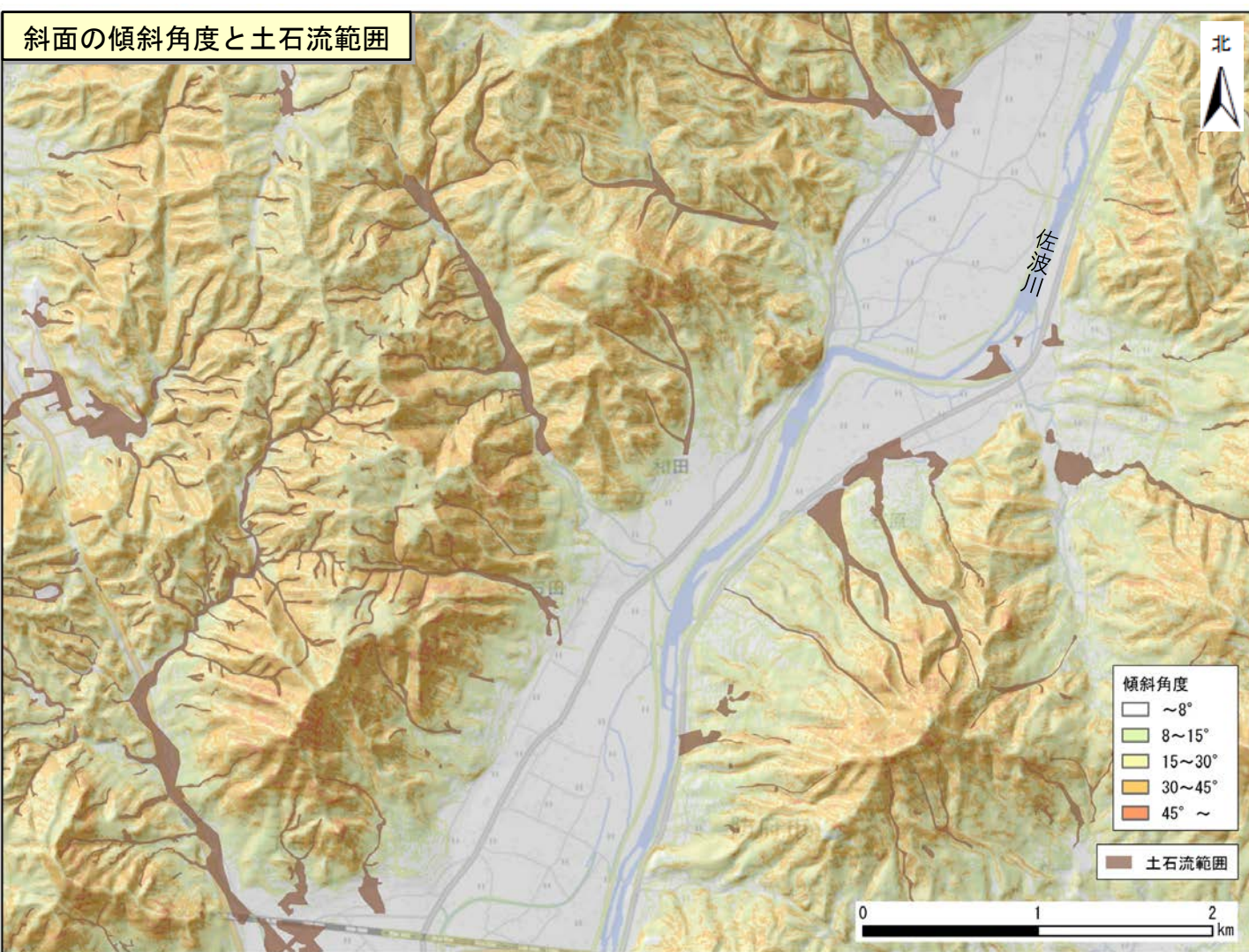
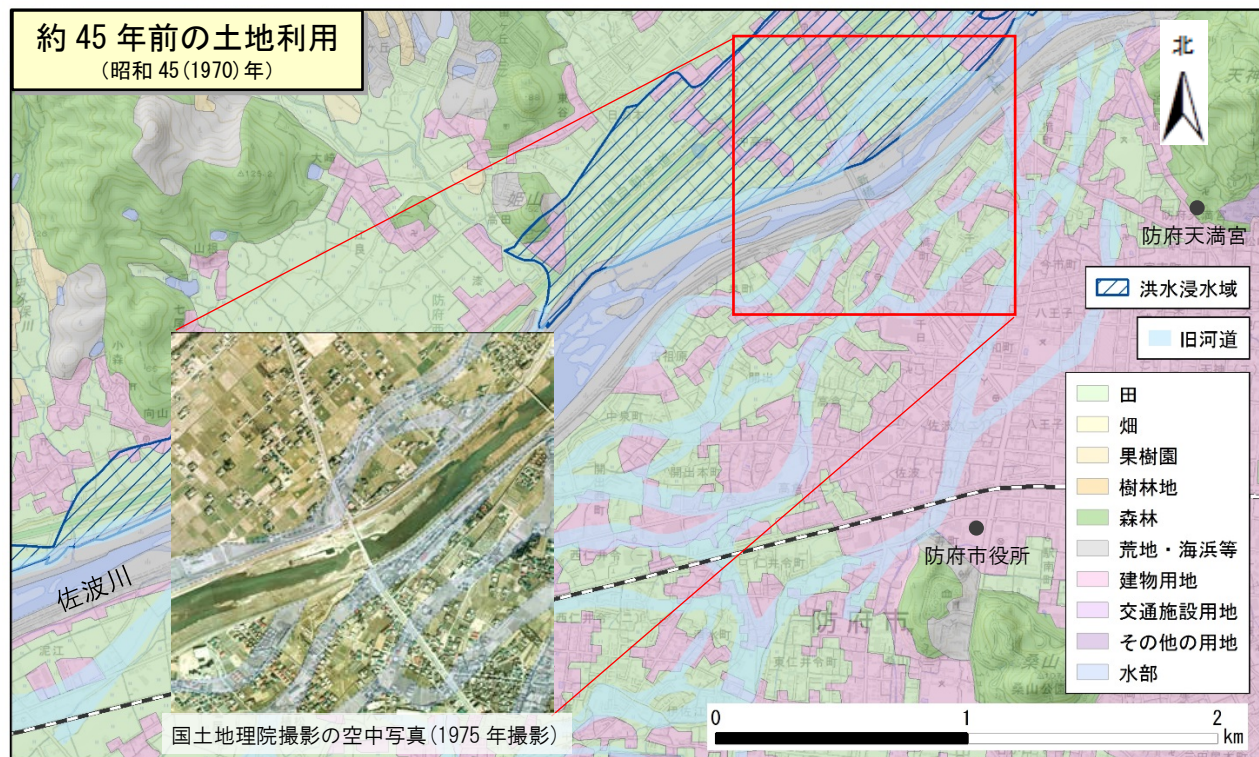
土地履歴調査成果の GIS データと、関係機関から公開されている GIS データや空中写真、地形図、災害資料等を利用して、調査対象地区を横断的に、防災、開発と地形条件、観光、文化遺産、産業の5つのテーマについて、モデル的に地図と解説文を整理しました。  
この資料を参考に、土地履歴調査成果の地図や GIS データ等をさまざまな場面で活用していただければと思います。

佐波川沿い低地の河川はらん、花こう岩山地の土砂災害の発生の記録

ー 災害発生地地形条件や土地利用の変遷を知る。

佐波川沿いの低地では、過去から幾度も水害に見舞われてきました。この地域は、約50年前にはまだ田園景観を残しており、かつての河川の流路跡を示す「旧河道」の地形が確認できました。旧河道は、周囲より低所となっていることが多く、洪水時には氾濫水の流下経路となりやすく、また周囲に比べ長い時間浸水することがあります。

山口県南部の防府市を中心とした地域では、平成21(2009)年7月19日から26日にかけて停滞した梅雨前線により、総雨量549ミリに達する豪雨に見舞われ、山崩れや土石流、河川の増水等による死傷者の発生、道路等の寸断、上水道施設の被災等甚大な被害が生じました。「災害履歴図」から読み取れるように、花こう岩が分布する山地の急斜面で発生した多数の崩壊が土石流となって下流の人家や施設等に流下し大きな被害を生じました。



使用データ  
土石流範囲…土地履歴調査成果(災害履歴分類図)  
傾斜角度…基盤地図情報(数値標高モデル5mメッシュ)

使用データ  
背景図…昭和期：土地履歴調査成果(土地利用現況図)、  
現在：国土数値情報(土地利用細分メッシュ)  
洪水浸水域…土地履歴調査成果(災害履歴図)  
旧河道…土地履歴調査成果(地形分類図)



平成21(2009)年豪雨災害の土石流被害の状況 (防府市勝坂地区)

撮影：株式会社パスコ・国際航業株式会社

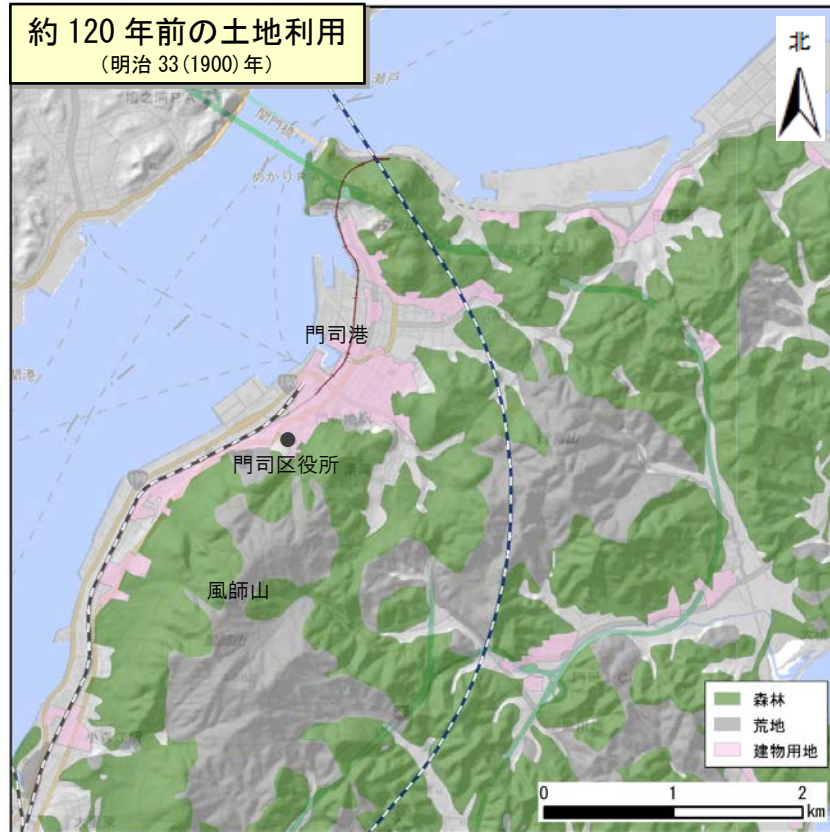
**⚠️ 注意 ! 必読のこと !** 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

# 九州の玄関口、門司市の発展と1953年西日本大水害・近年の土砂災害の発生状況

― 背後に傾斜地を控えた都市の拡張と災害危険を理解する。

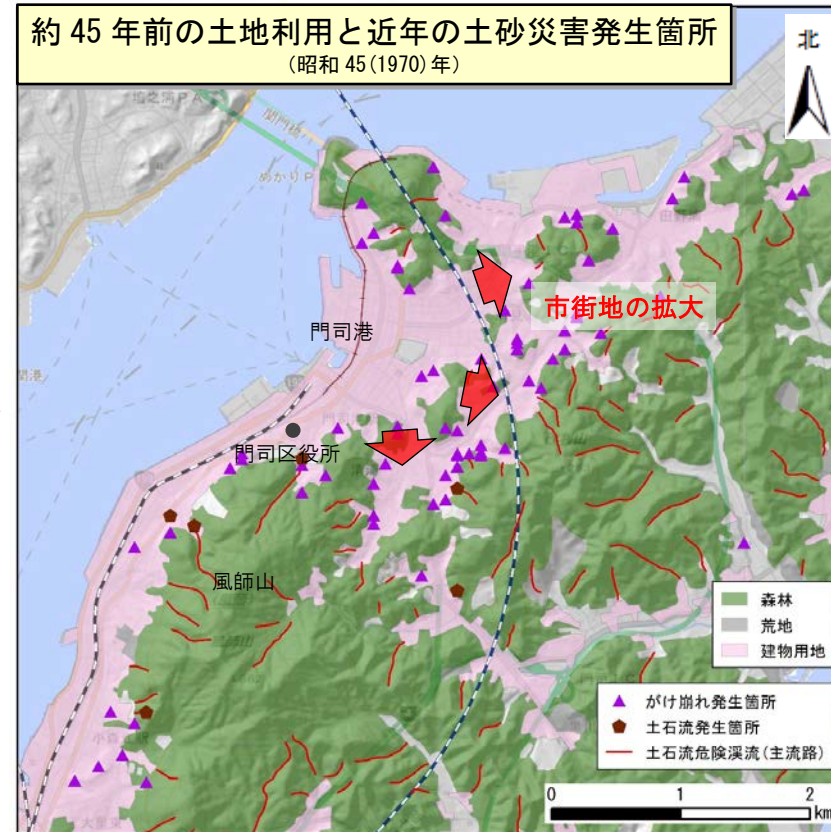
## 土地利用の変遷と土砂災害

### 約120年前の土地利用 (明治33(1900)年)

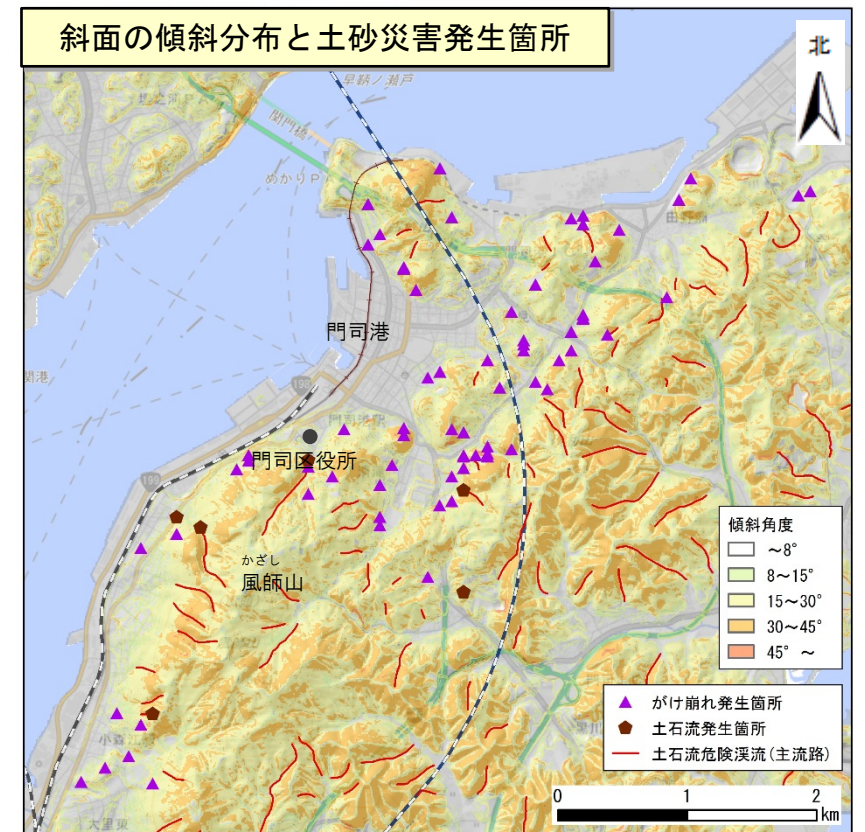


使用データ  
 背景図…土地履歴調査成果(土地利用現況図第1期、第2期)  
 がけ崩れ・土石流発生箇所…土地履歴調査成果(災害履歴図)  
 土石流危険渓流(主流路)…国土数値情報(土砂災害危険箇所)

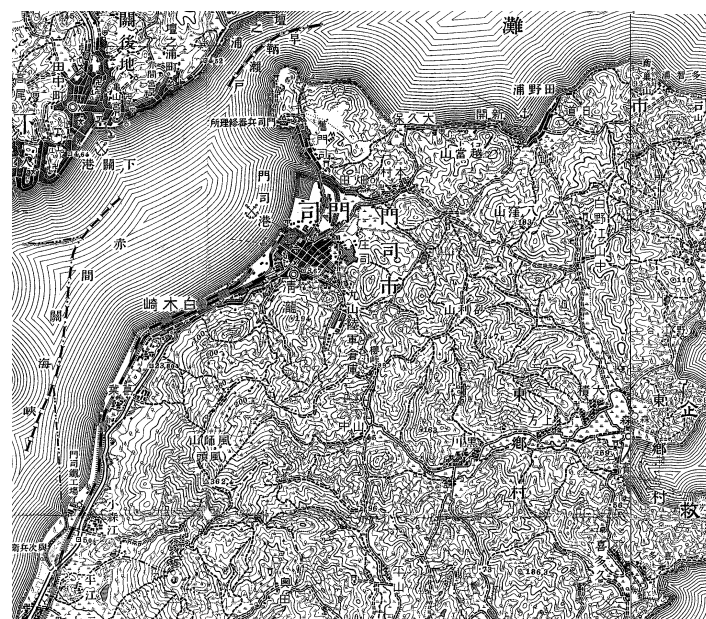
### 約45年前の土地利用と近年の土砂災害発生箇所 (昭和45(1970)年)



### 斜面の傾斜分布と土砂災害発生箇所



使用データ  
 傾斜角度…基盤地図情報(数値標高モデル5mメッシュ)  
 がけ崩れ・土石流発生箇所…土地履歴調査成果(災害履歴図)  
 土石流危険渓流(主流路)…国土数値情報(土砂災害危険箇所)



昭和28(1953)年西日本水害の状況  
(風師山の山腹崩壊)

福岡県砂防課ホームページより

北九州市の門司地区は、関門海峡に面した交通の要衝として早くから栄え、明治期には山がちの企救(きく)半島の山麓部の海沿いの狭い低地に市街地が立地し、明治32年(1899年)に門司市に市制が施行されました。

約120年前の「土地利用分類図」からわかるように、当時は背後の山地は森林・荒地となっており、沿岸部の限られた範囲に市街地が見られるに過ぎませんでしたが、その後地域の発展とともに市街地が山沿いへ拡大していきました。

昭和28(1953)年6月の西日本大水害の際は、降り続く大雨により当時の市街地の背後斜面の大規模な崩壊が生じ、下流へ押し寄せた土砂(山津波)は山麓の市街地を中心に大きな被害をもたらしました。

約45年前の「土地利用分類図」から市街地は現在さらに山側へ拡大し、近年でもがけ崩れ等の土砂災害の影響を受けやすい地域がみられます。

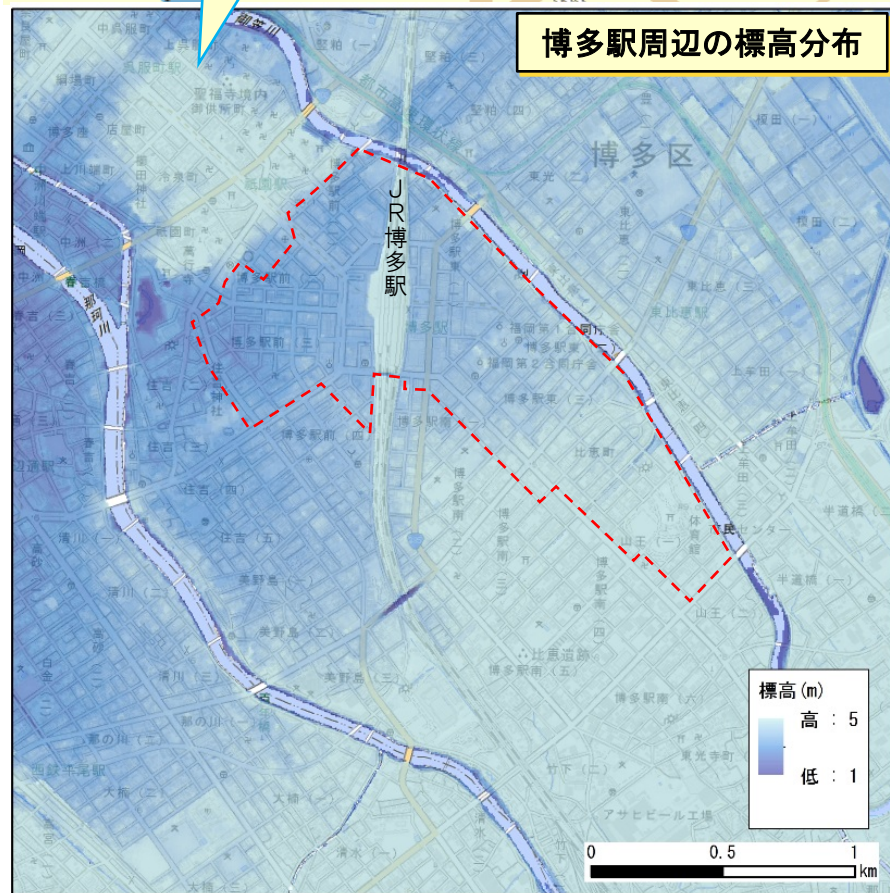
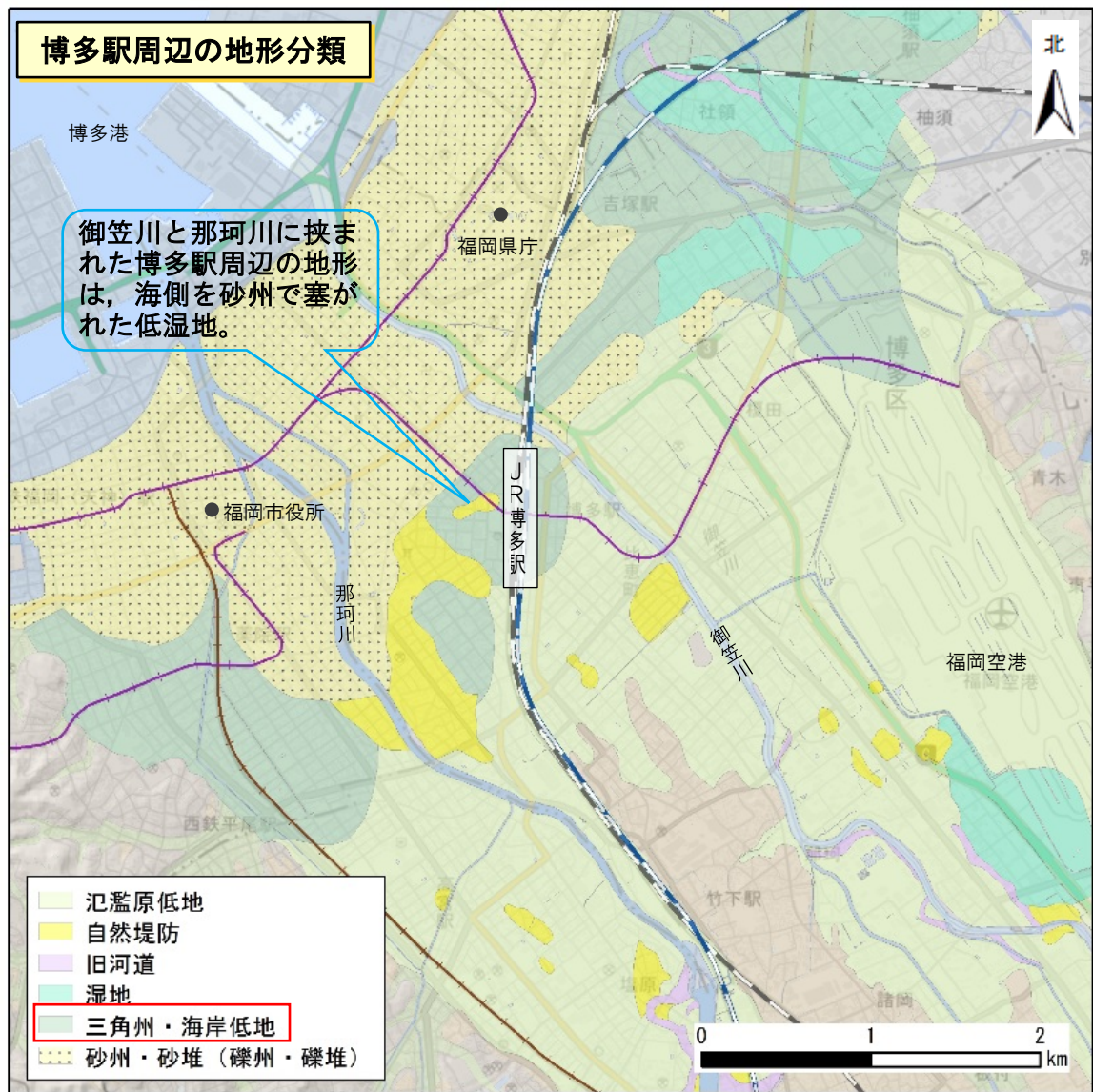
### 注意 ! 必読のこと!

本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平29情使、第177号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成29情複、第191号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成29情複、第191号)。

平成11年6月の豪雨による博多駅周辺の地下街浸水の発生条件

— 低地の土地の生い立ち：地形や起伏を知り、浸水に備える。



平成11(1999)年6月、福岡市は集中豪雨に見舞われ、市内は内水被害が各所で発生する中、御笠川の溢水が発生し、地盤の低い JR 博多駅周辺では、入口階段や換気口からの浸水は、ビル地下や駅構内、地下街に流入しました。博多駅周辺における浸水深は最大1mほどの深さに達し、駅周辺の地下施設が水没するなど、大きな被害が生じました。

博多駅周辺は、那珂川と御笠川下流部が低平な海岸平野に入り、海岸寄りを砂州で閉塞された低平な地形を呈しており、周囲に比べ地盤の低い地域が分布しています。都市内でこうした地形条件を持った地域は、福岡市内に限らず各地に分布していますので、地域内に降る大雨により排水が困難となった場合に想定される浸水に対する十分な配慮が求められます。

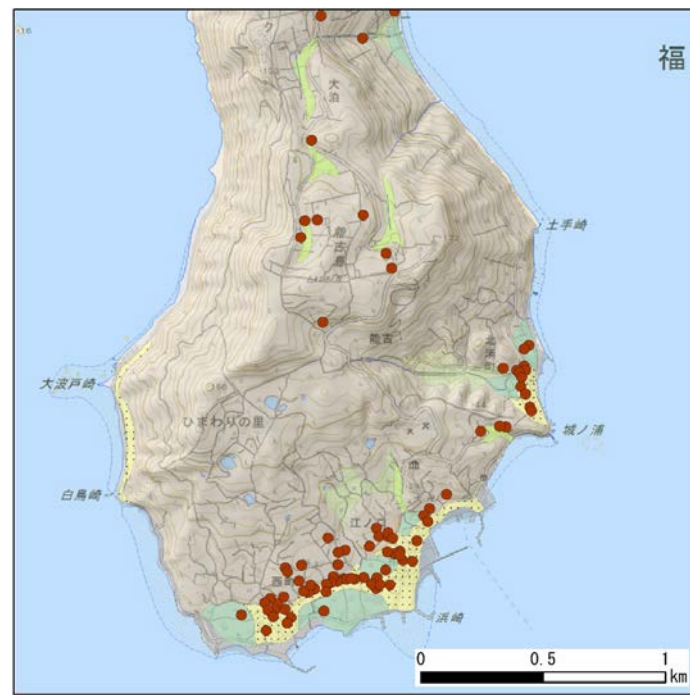


1999(平成11)年6月博多駅地下街浸水被害の状況  
国土交通省ホームページより

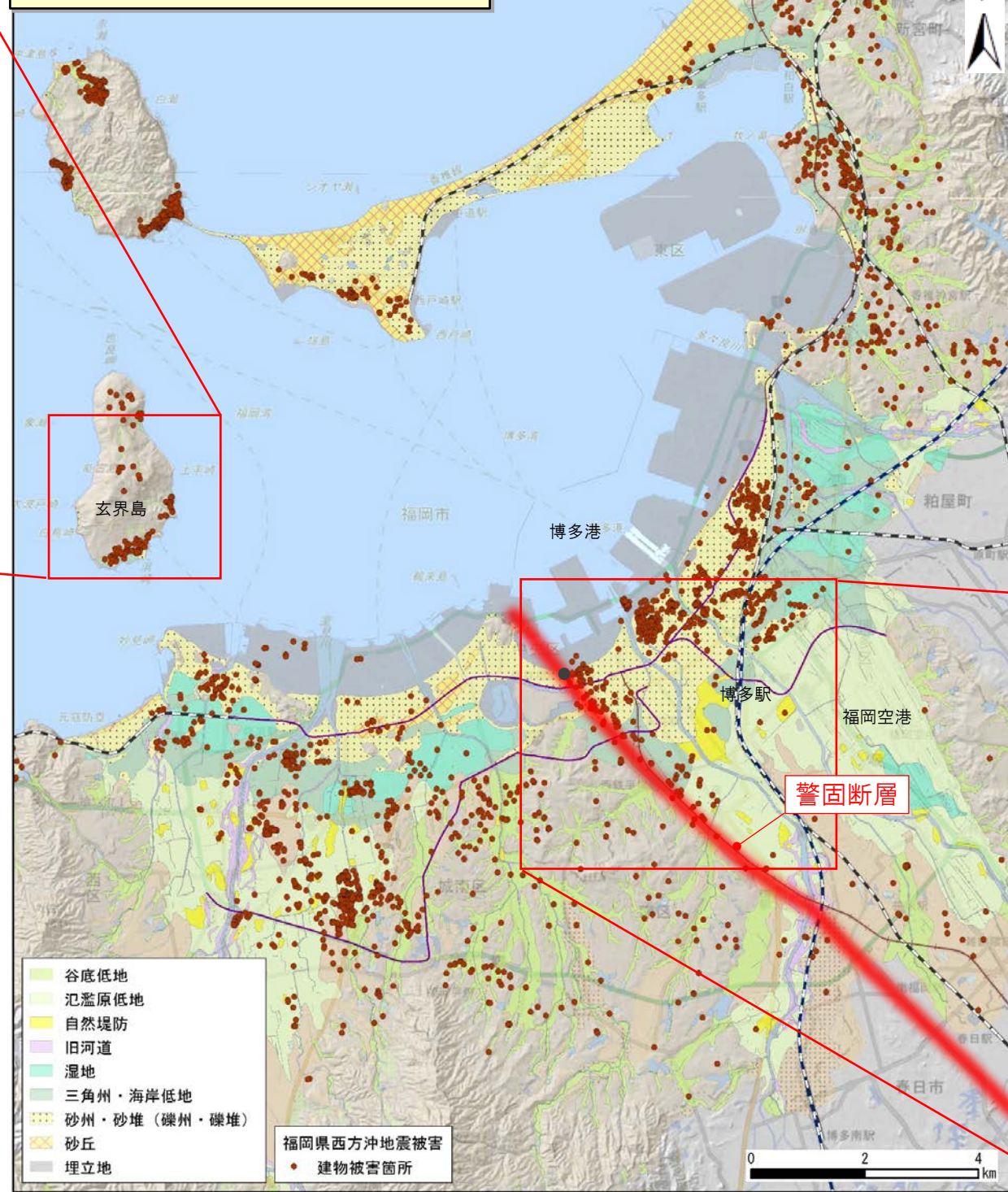
⚠️ 注意 ! 必読のこと!

本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

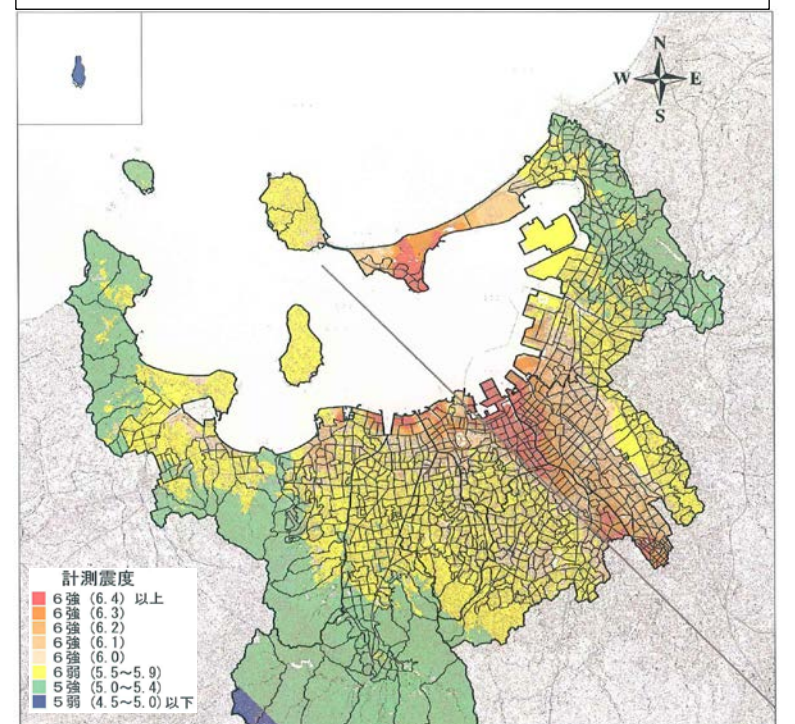
平成 17 (2005) 年福岡県西方沖地震被害と地形条件の関係



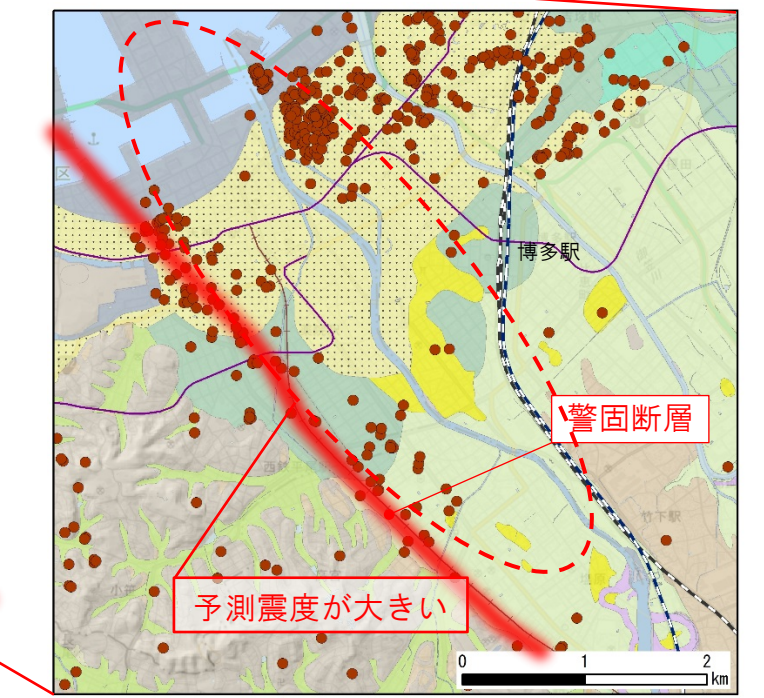
地形分類・既知の活断層と建物被害箇所



警戒断層南東部(陸域)がM=7.2で揺れた場合の震度予測



揺れやすさマップ(福岡市)



玄界島の被害状況

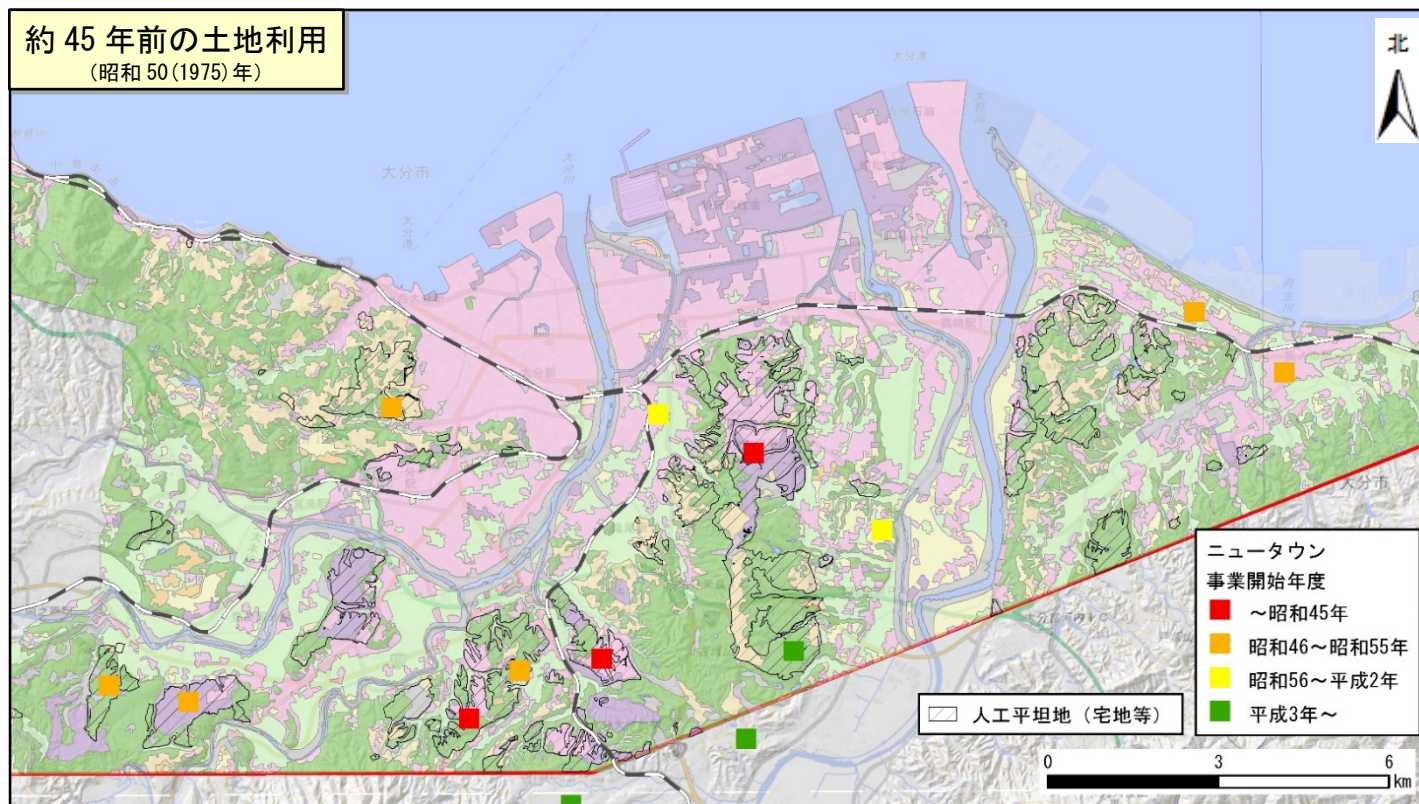
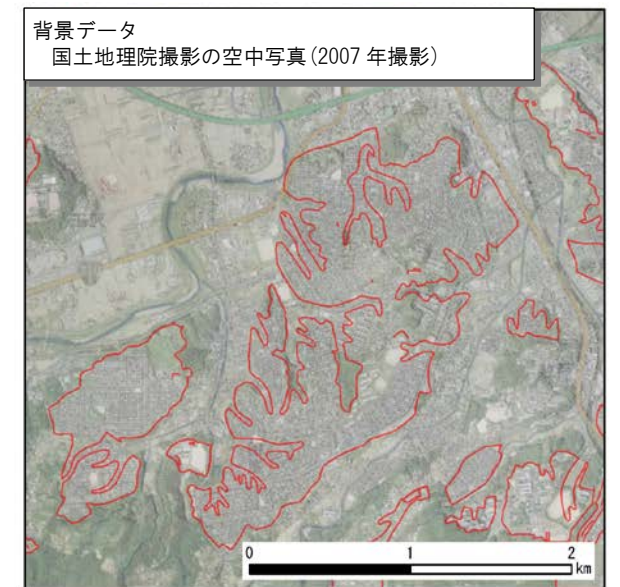
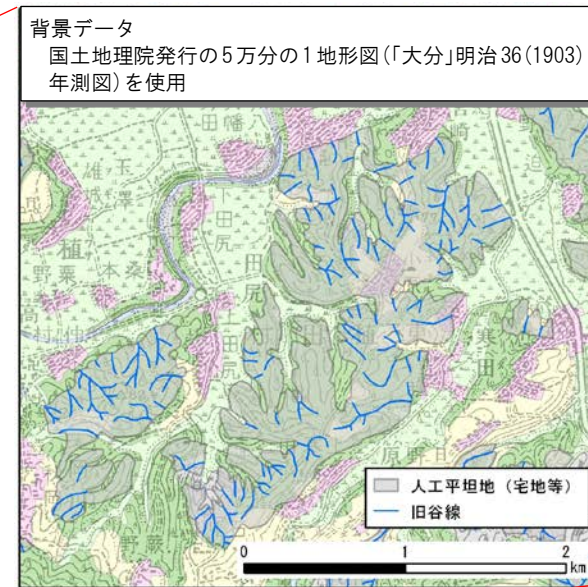
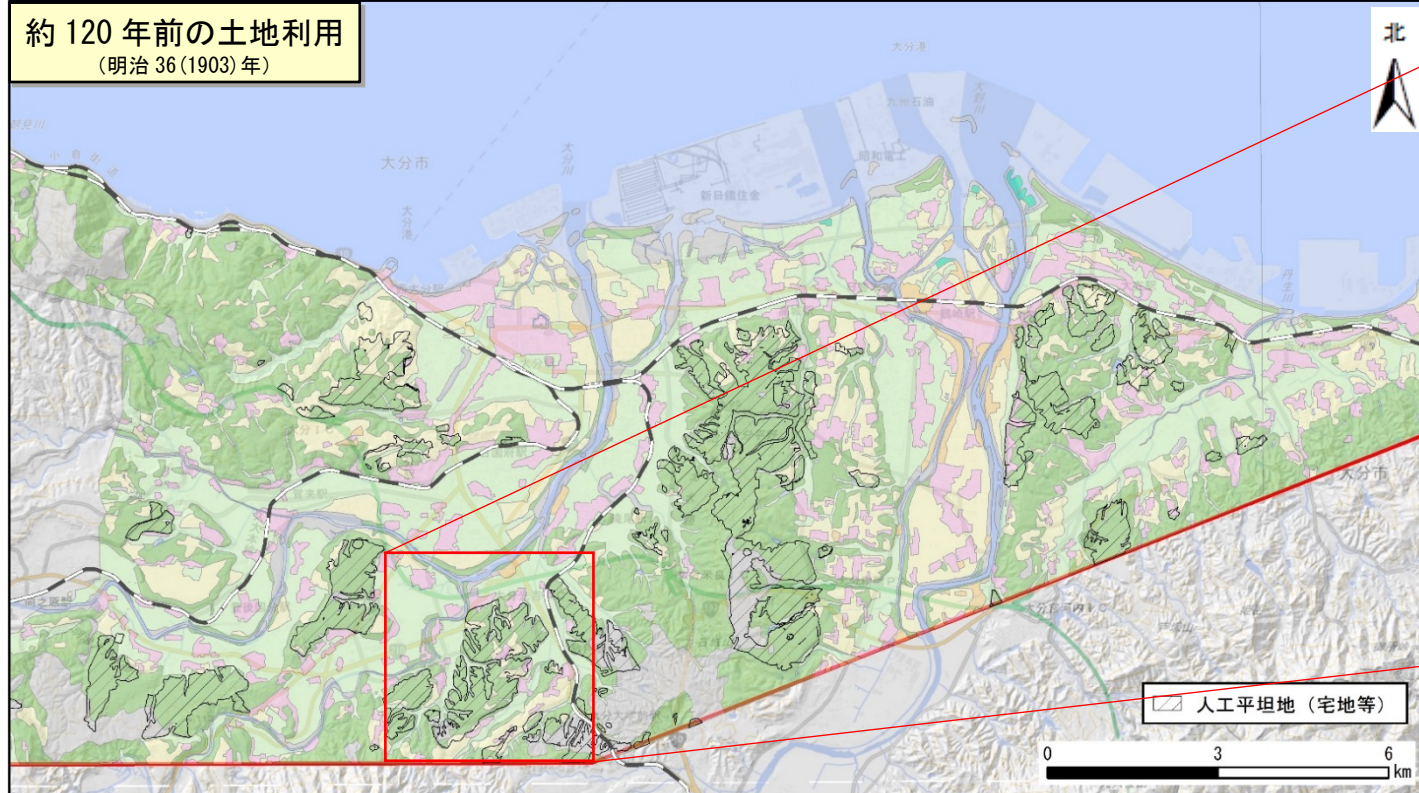
福岡県西方沖地震記録誌(福岡市)

使用データ  
 地形分類図…土地履歴調査成果(自然・人工地形分類図)  
 福岡県西方沖地震被害…土地履歴調査成果(災害履歴分類図)

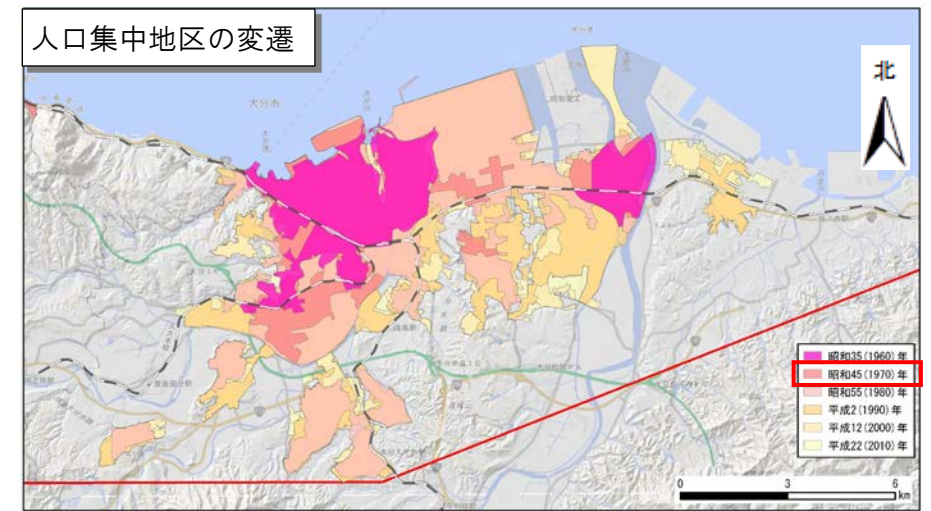
平成 17 年 3 月 20 日 午前 10 時 53 分頃、福岡県西方沖(福岡市の北西約 30km)を震源とする地震(深さ 9km、規模 M 7.0)が発生し、福岡市中央区・東区、糸島市前原等で震度 6 弱を観測しました。この地震は福岡県西方沖の未知の海底断層が動いたことによるものであり、余震分布等から南東延長にある警戒断層との関連性が想定されます。地震後の被害調査によると、福岡市中央区の警戒断層に沿って基盤面が大きく変化していることが知られている地域の周辺等で、建物・構造物被害が集中したことが確認されており、厚く堆積した軟弱層により地震波が増幅し、被害が集中した可能性が指摘されています(福岡県, 2005)。

⚠️ **注意 ! 必読のこと!** 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。  
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 5 万分の 1 地形図、2 万 5 千分の 1 地形図及び電子地形図(タイトル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

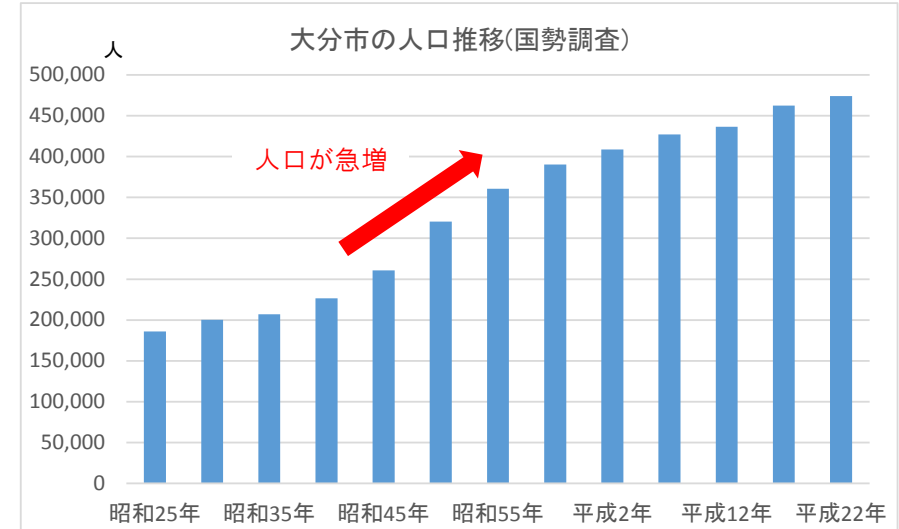
内陸部の丘陵地における大規模宅地開発の進展と地形の改変状況



大分市は、昭和 39 年 (1964 年) に新産業都市指定を受け、以後大野川、大分川河口部沿岸の海面の大規模埋め立てが急速に進みました。工業化に伴う旺盛な宅地需要を背景に、市街地は南部の台地・丘陵地へ拡張し、各地で地形を大規模に改変した造成事業が進みました。



使用データ  
D I D…国土数値情報 (D I D人口集中地区)

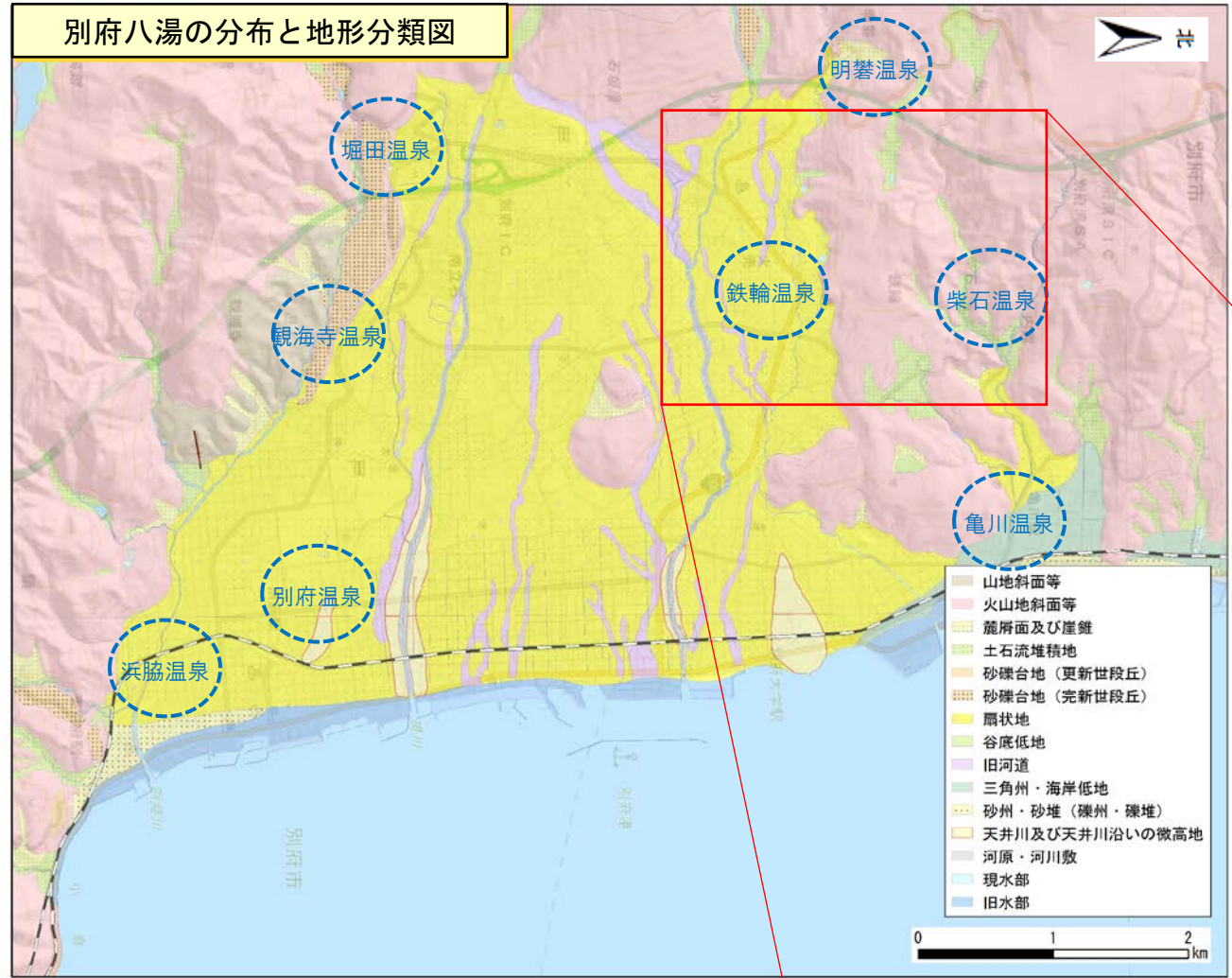
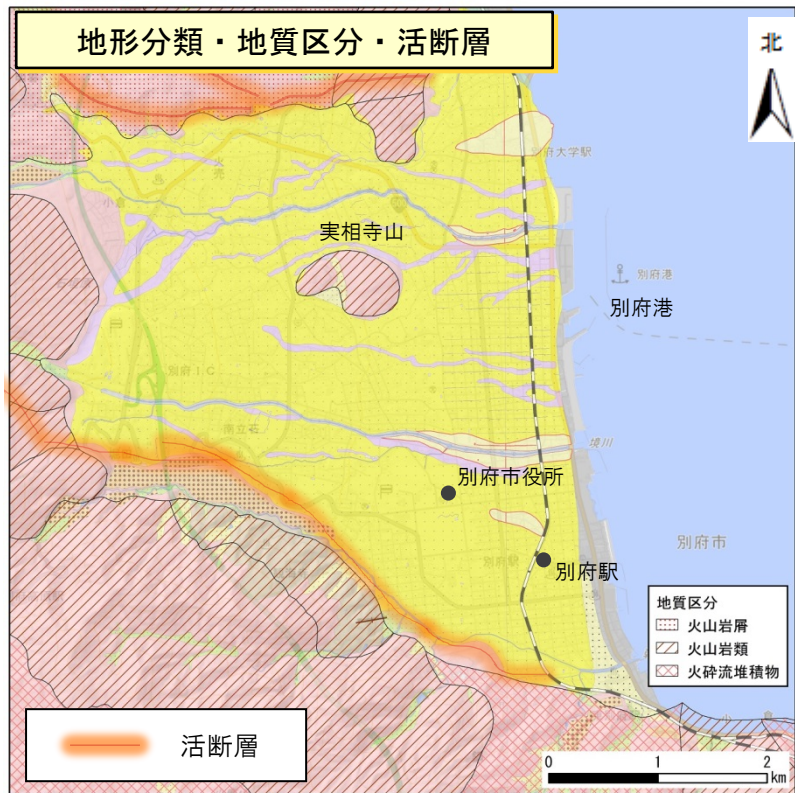


使用データ  
土地利用分類図(明治期・昭和期)…土地履歴調査成果(土地利用分類図)  
人工平坦地(宅地等)…土地履歴調査成果(人工地形分類図)  
ニュータウン…国土数値情報(ニュータウン)

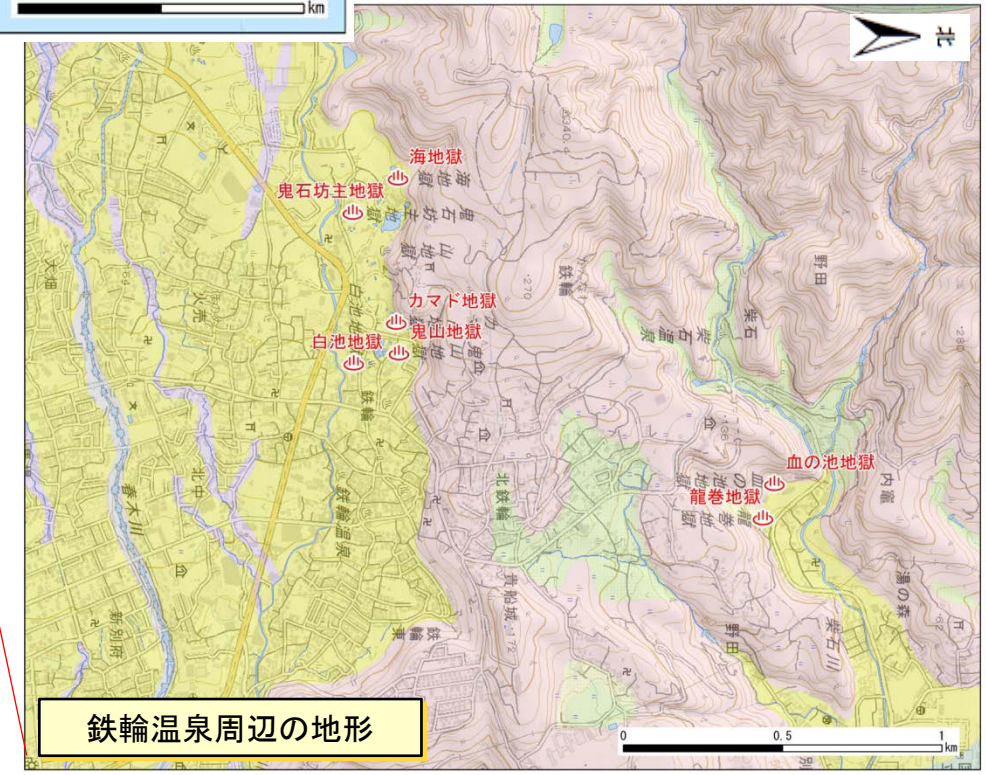
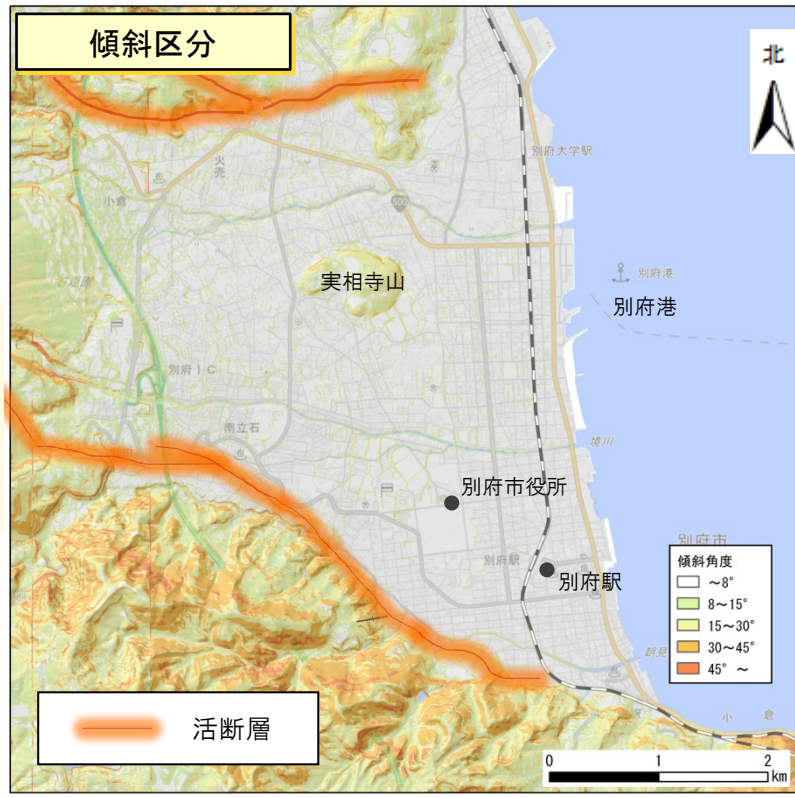
⚠️ 注意 ! 必読のこと ! 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。



火山麓の観光都市・別府 — 別府八湯の立地を地形からみる。



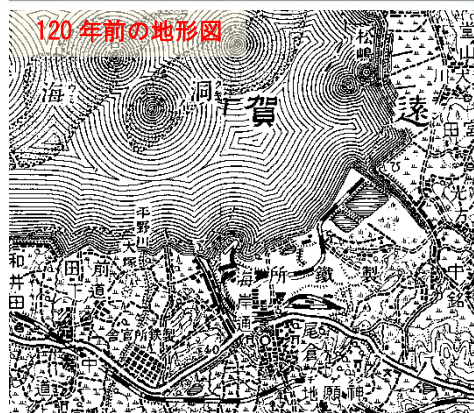
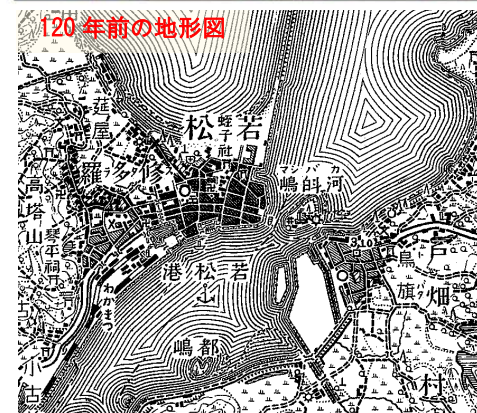
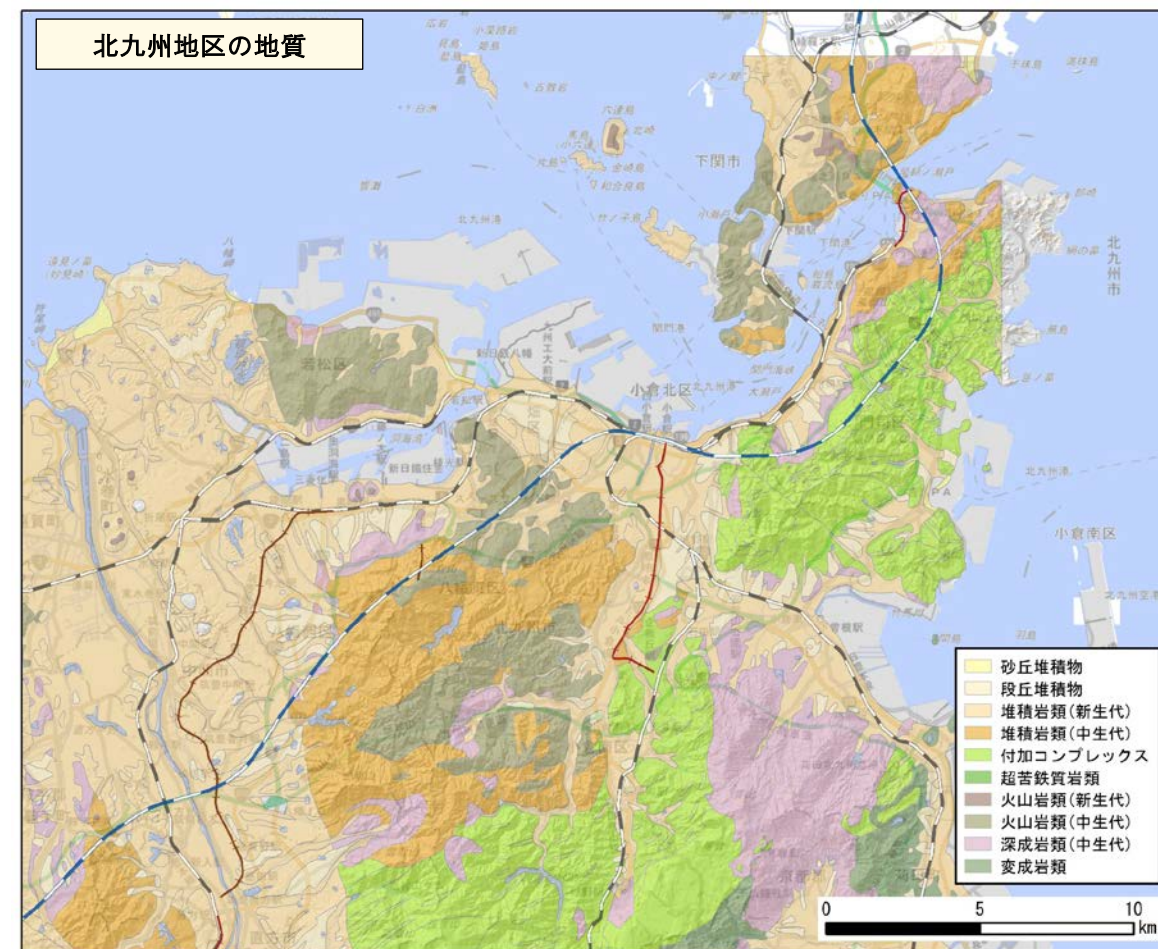
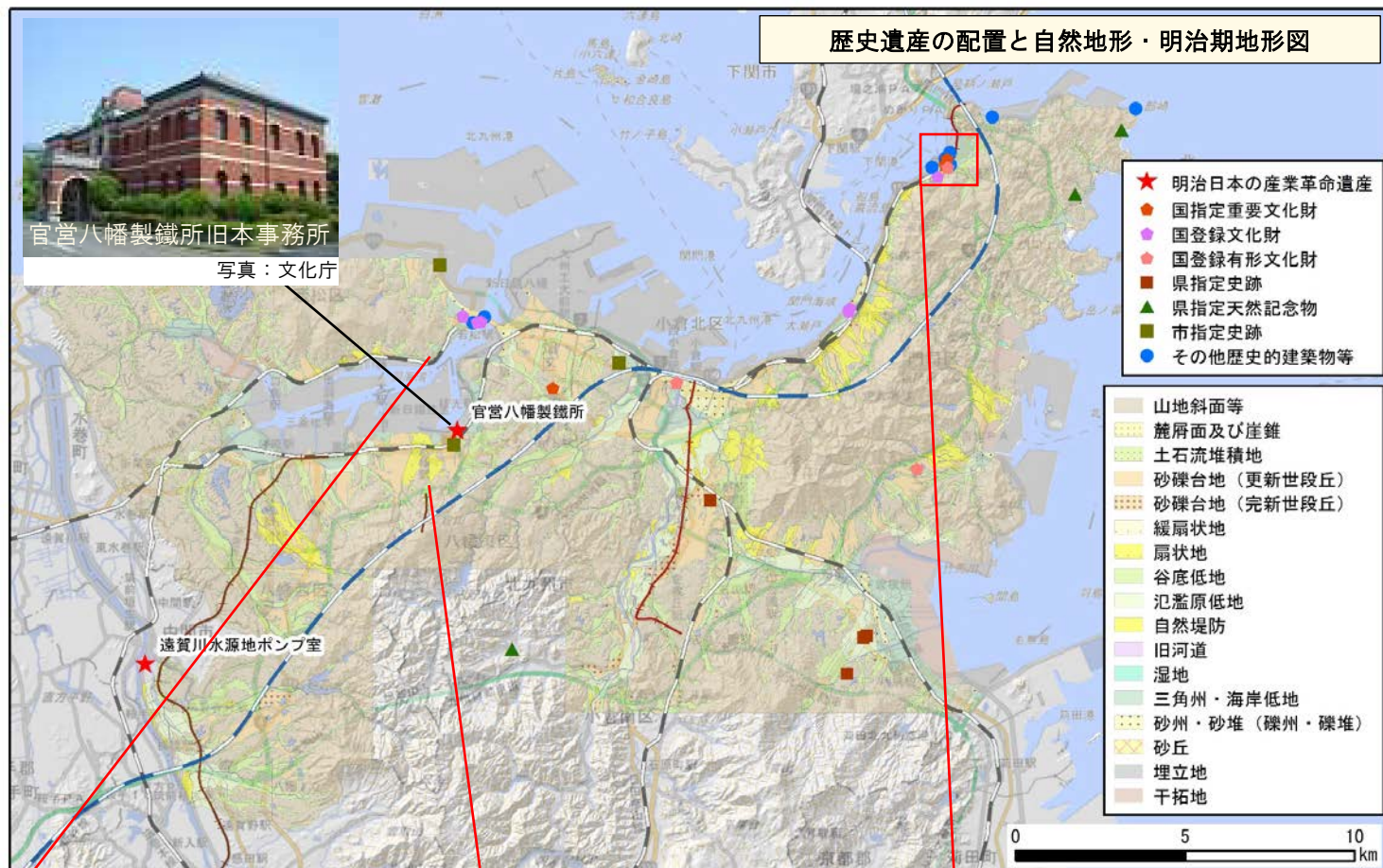
別府市街地が立地する別府扇状地は、その北縁を鉄輪断層、南縁を朝見川断層系により挟まれた場所に形成された砂礫質の傾斜地で、主に春木川と境川によって運ばれた土砂により形成されたものです。  
 火山性温泉である別府温泉は、泉温が高く多様な泉質のあることが特徴で、鶴見火山群の地下深部に存在する熱源と化学成分が、雨水を起源とする地下水に混ざり、別府市街地周辺の各地に温泉の恵みをもたらしています。  
 別府八湯（はっとう）は、扇状地の南北の2つの断層に沿って位置しています。



使用データ 土地履歴調査成果（自然地形分類図）  
 地質区分：産業技術総合研究所（地質情報データベース）  
 傾斜区分…基盤地図情報（数値標高モデル5mメッシュ）  
 ※活断層は、都市圏活断層図（国土地理院）を参考におおむねの位置を表示しており、最新の情報は地理院地図などを参照のこと。

**注意！必読のこと！** 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。  
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した（承認番号 平 29 情使、第 177 号）。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図（タイル）を複製したものである（承認番号 平成 29 情復、第 191 号）。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。（承認番号 平成 29 情復、第 191 号）。

地形分類図, 明治の地形図, 地質図と比較して見る「文化遺産」と「ジオパーク」



北九州市は、昭和 38 年(1963 年)に門司、小倉、戸畑、八幡および若松の 5 市の合併により誕生し、現在では福岡市に次ぐ九州で第 2 の規模の政令指定都市となっています。早い時期から市街地が形成された地域のうち、近代の産業発展とともに急速に発展を遂げた都市の立地を地形分類図から見ると、若松・戸畑は洞海湾口の砂州に位置するのに対し、八幡の製鉄工場周辺や門司港周辺は、沿岸の海岸低地に都市の基盤を持つことが判ります。



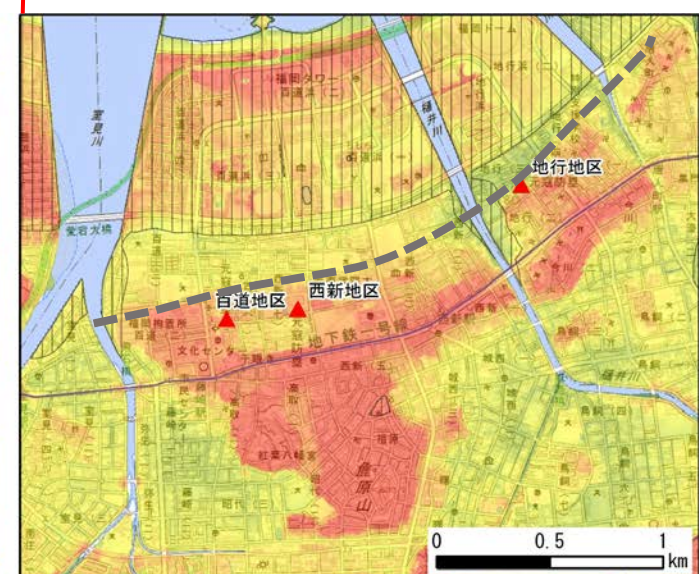
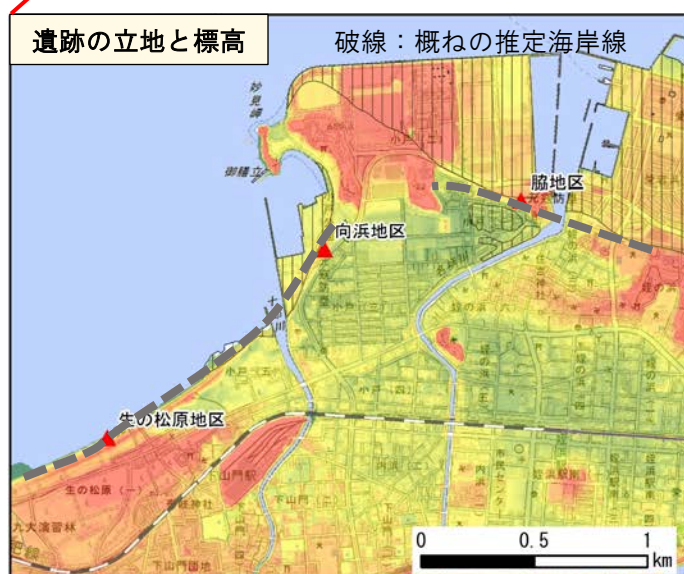
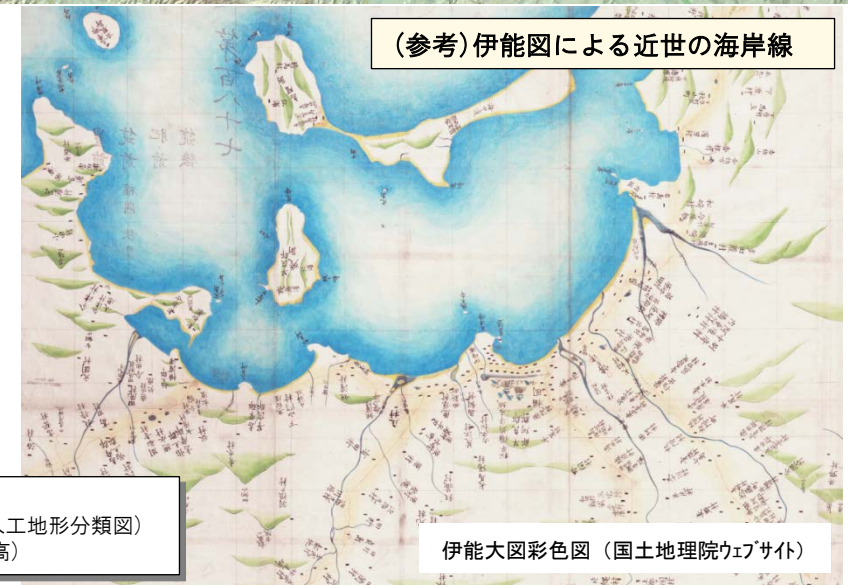
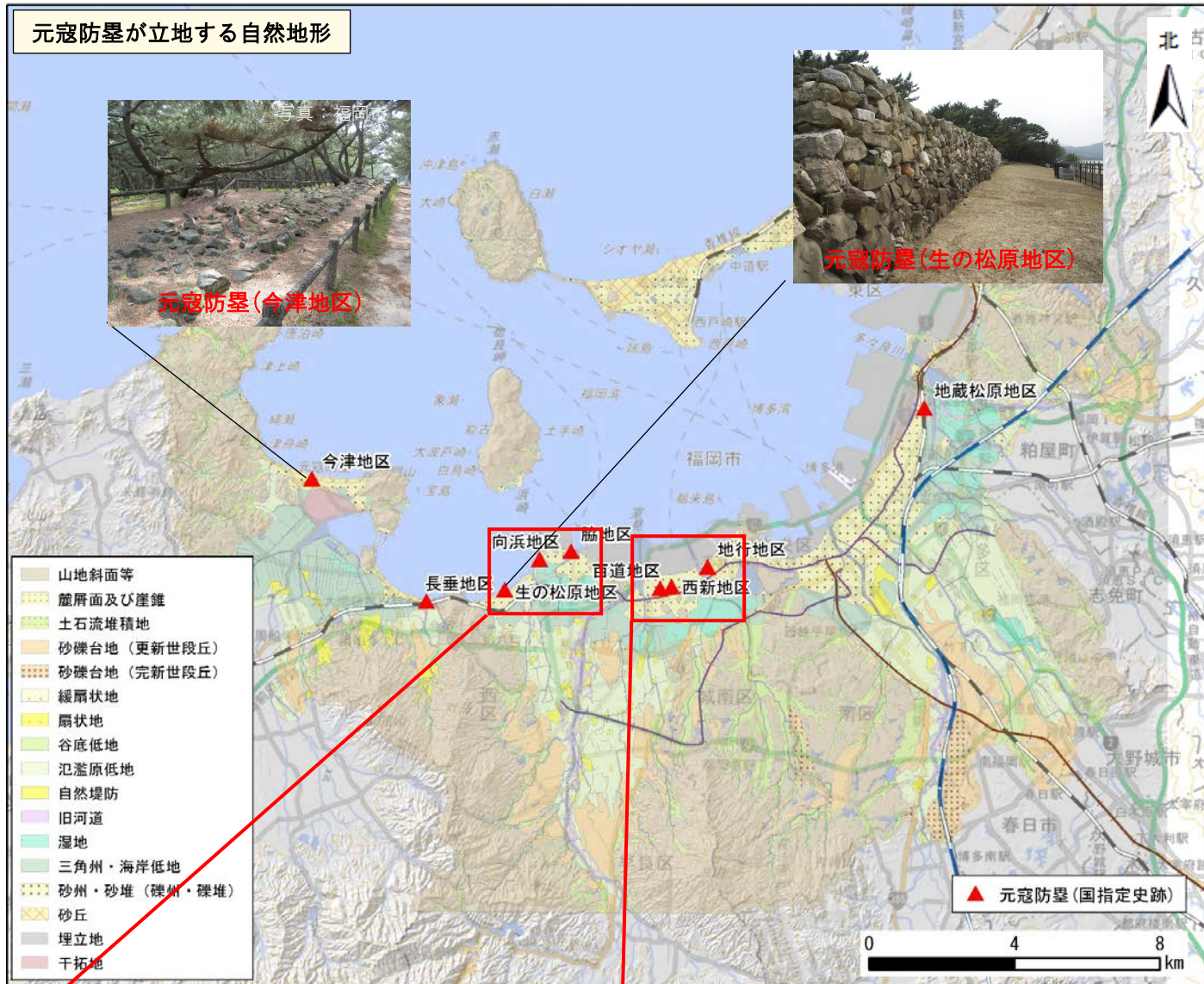
資料：北九州市自然史・歴史博物館

使用データ  
地形分類図…土地履歴調査成果(自然地形分類図, 人工地形分類図)  
地質図…産業技術総合研究所(地質情報データベース)

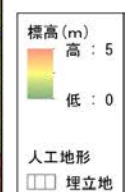
**注意 ! 必読のこと!** 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であつて、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 5 万分の 1 地形図、2 万 5 千分の 1 地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

史跡『元寇防塁』の立地と自然地形分類・現在の標高分布・推定海岸線

一 中世の博多湾沿岸部の環境を知る。



使用データ  
 地形分類図…土地履歴調査成果(自然地形分類図, 人工地形分類図)  
 標高区分…基盤地図情報(数値地図5mメッシュ標高)



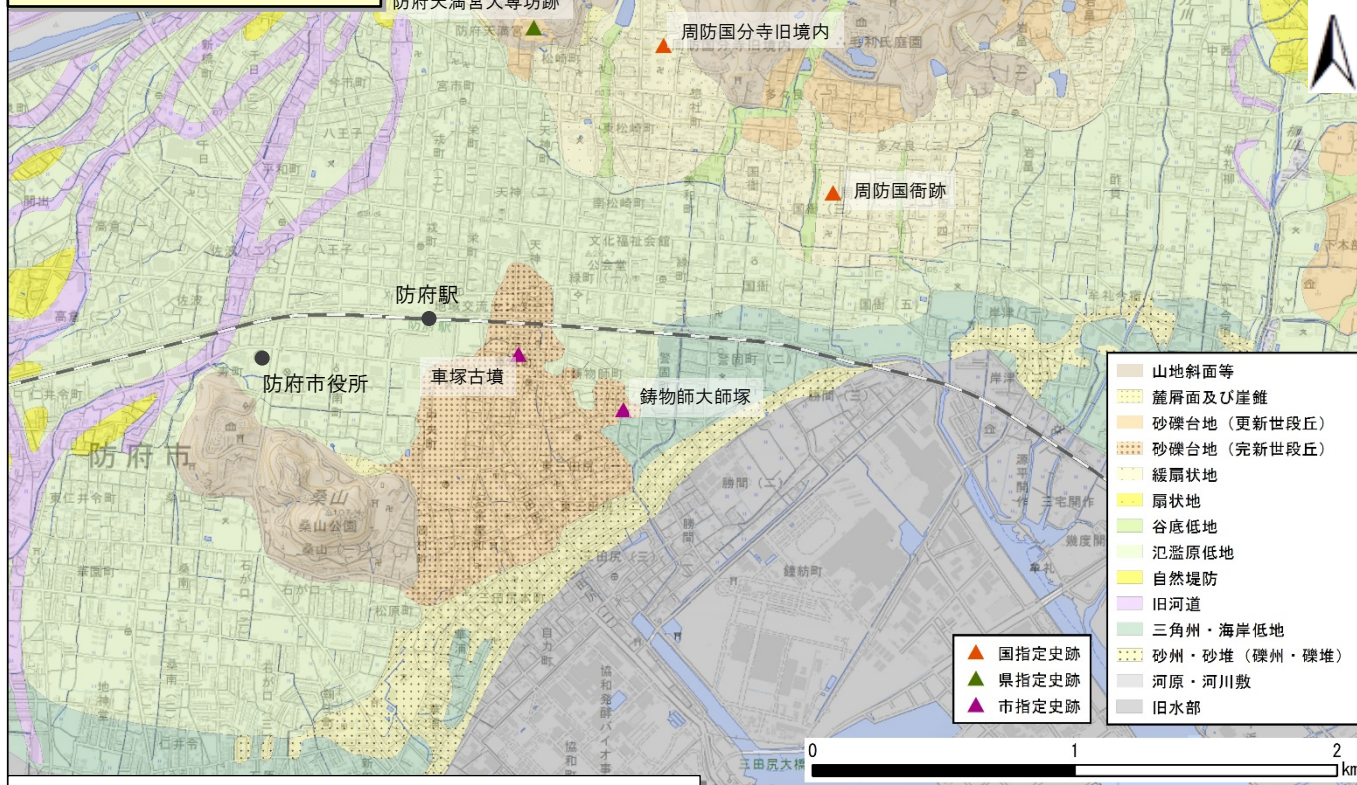
現在の博多湾沿岸は、沖合まで埋め立てられ、港湾用地や住宅団地や各種施設が立地しています。「元寇防塁」は、鎌倉時代に蒙古の襲来に備え海岸沿いに築かれた石積みで、絵図に当時の戦の際の姿が残されています。防塁の遺構が確認できる場所と、地形分類図や標高分布図を比較することにより、当時のおおよその海岸線の位置を推定することができます。

⚠️ **注意 ! 必読のこと!** 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイトル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

地域の遺跡・条里地割の立地を自然地形分類，明治期の土地利用から見る

防府市街地の地形分類

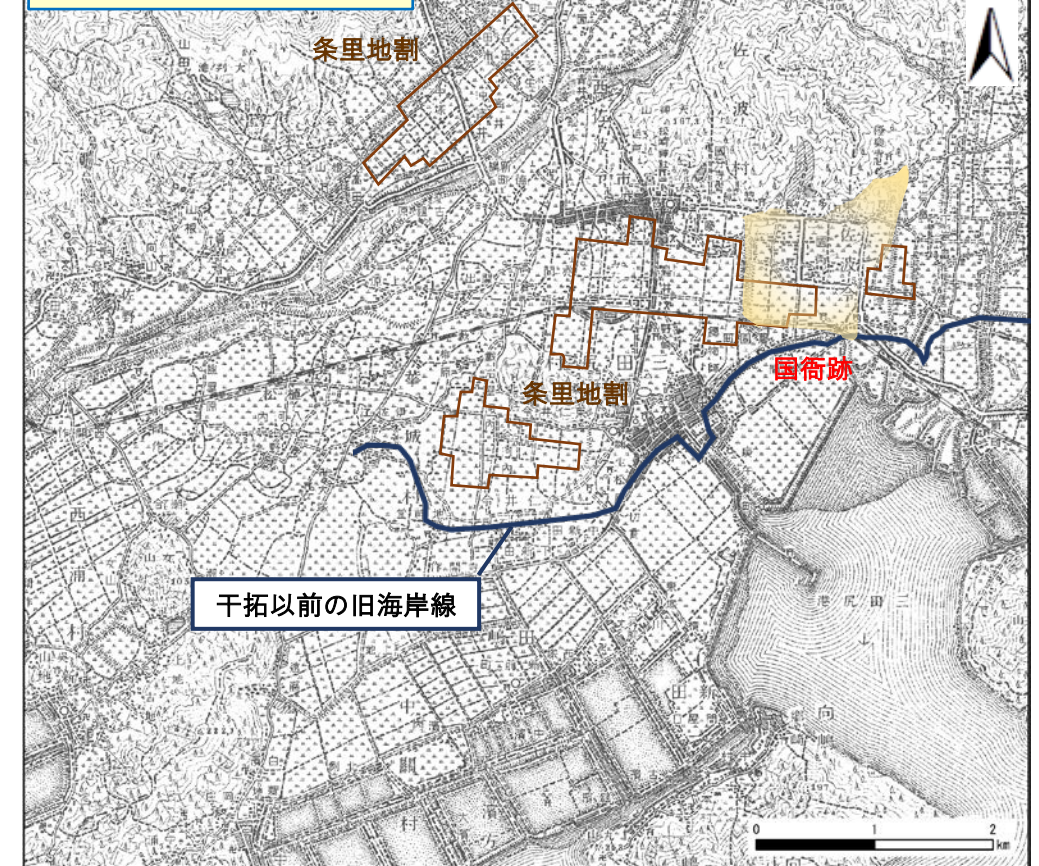


使用データ  
 地形分類図…土地履歴調査成果(自然地形分類図)  
 土地利用分類図(明治期)…土地履歴調査成果(土地利用分類図)

現在の防府市街地周辺では、一部に条里地割が認められたことが知られています。またこの地域には、国衙跡や国分寺など各時代の史跡が残されています。現在は市街地の中に取り込まれ所在が判りにくくなっている史跡や干拓地(開作)も、約120年前の明治後期に測量された地形図でその形状が明瞭に認められます。

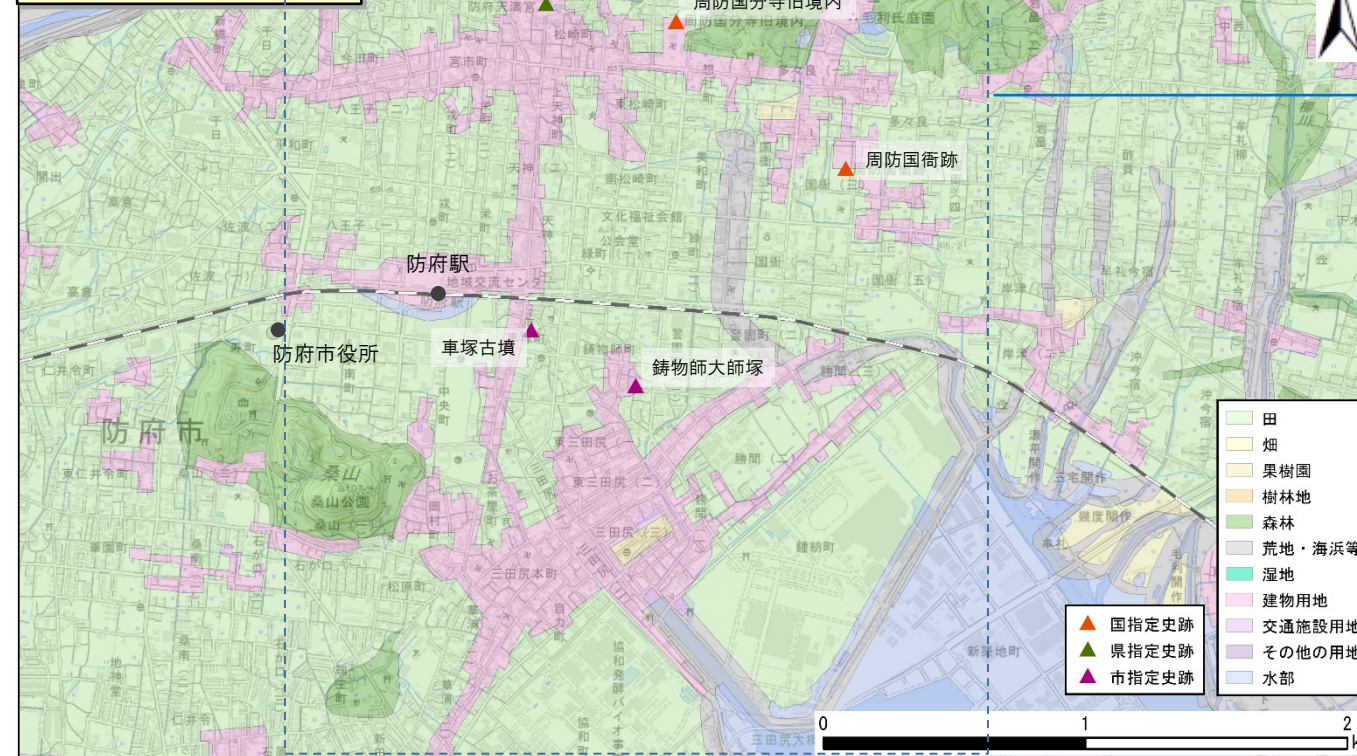
また地形分類図からは、古墳や歴史のある社寺の多くが佐波川の洪水の影響を受けにくい扇状地や台地などの地形に立地していることがわかります。

国衙跡、条里地割の範囲

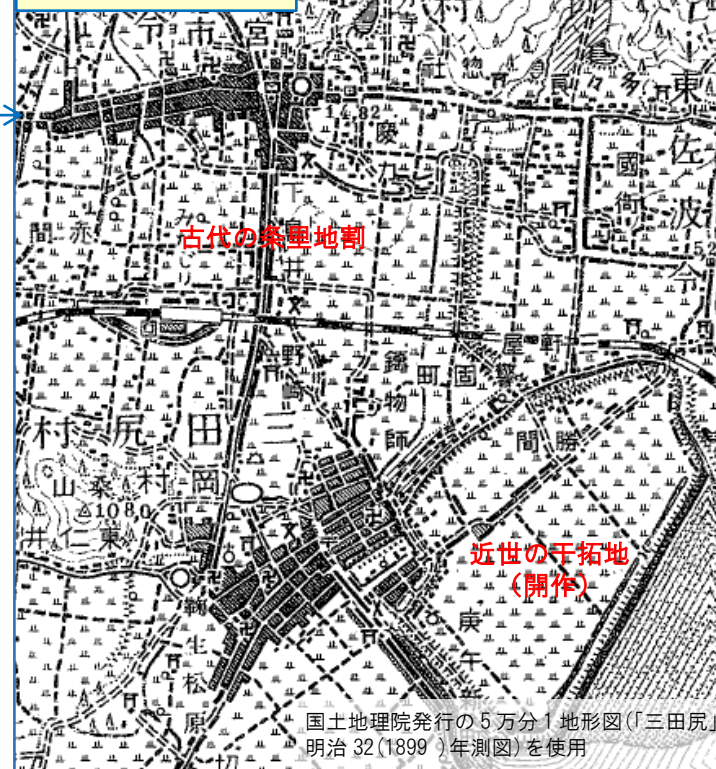


干拓以前の旧海岸線

約120年前の土地利用  
(明治33年=1900年)

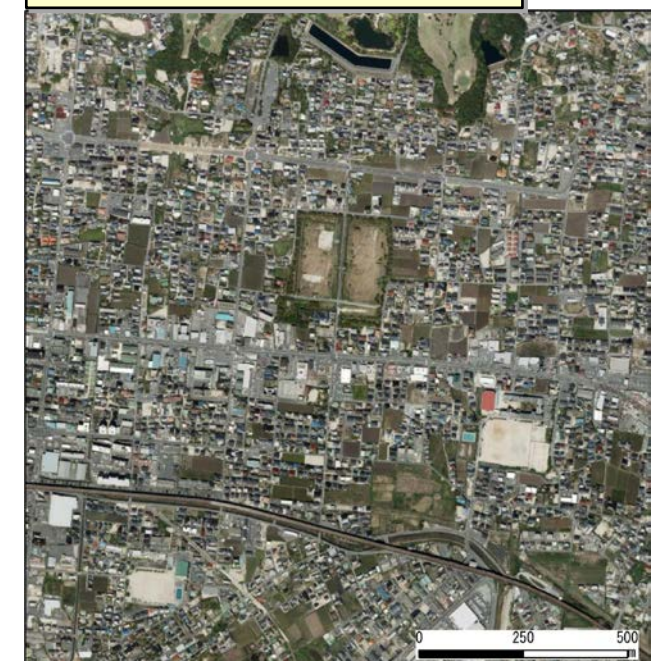


明治期の地形図



近世の干拓地(開作)

現在の空中写真(周防国衙周辺)

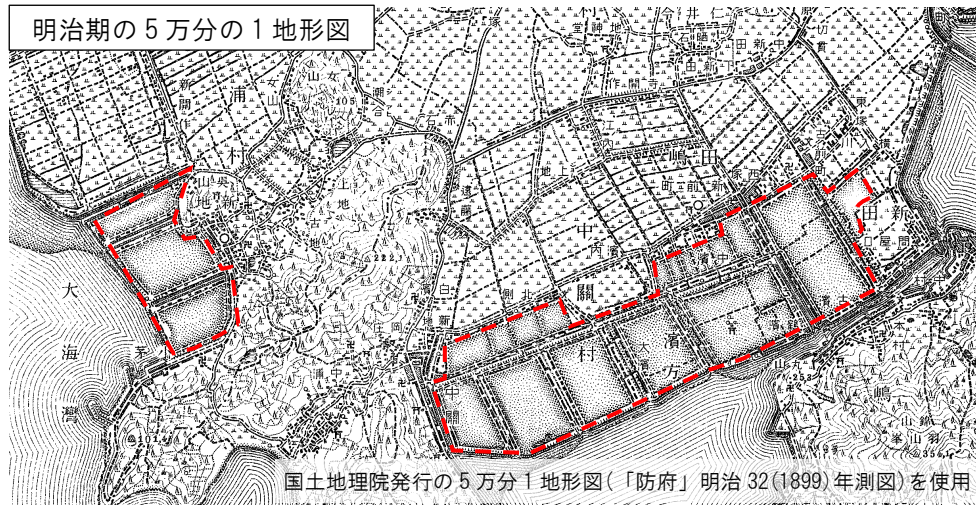
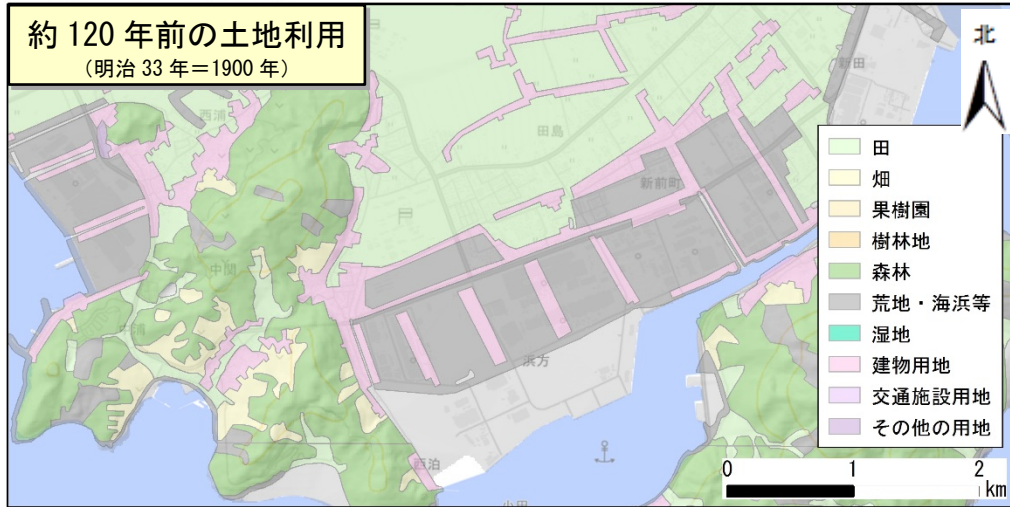


国土地理院撮影の空中写真(2010年撮影)

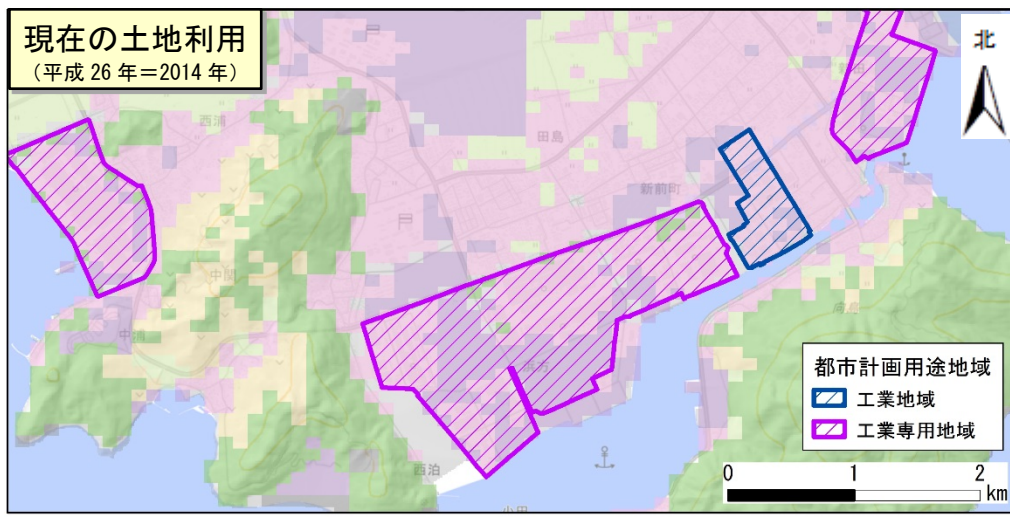
⚠️ 注意 ! 必読のこと ! 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

瀬戸内海沿岸の明治以降の土地利用変遷（干拓地・塩田の盛衰と工場用地への転換）



瀬戸内海沿岸では、近代まで製塩が盛んに行われ、沿岸部の干拓地の地先には広く塩田が分布していました。昭和35(1960)年以降、イオン交換膜による機械製塩への転換が進み、国内の塩田は廃止されました。現在、防府市の三田尻塩田記念産業公園には、往時の入浜式塩田が復元されています。塩田廃止後の中関地区・西浦地区には、東洋工業（現：マツダ）等が進出し、数次の敷地拡張とともに関連業種の立地が進み、山口県内屈指の加工組立型業種の集積地となっています。



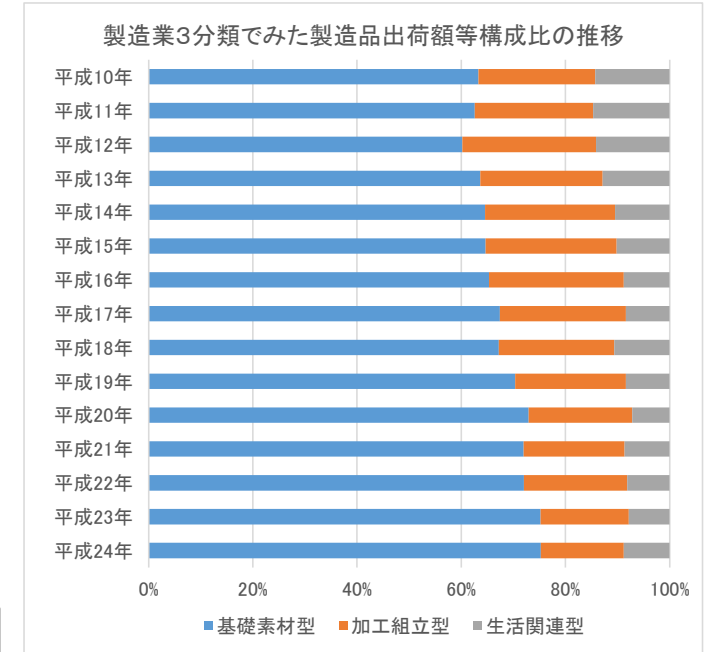
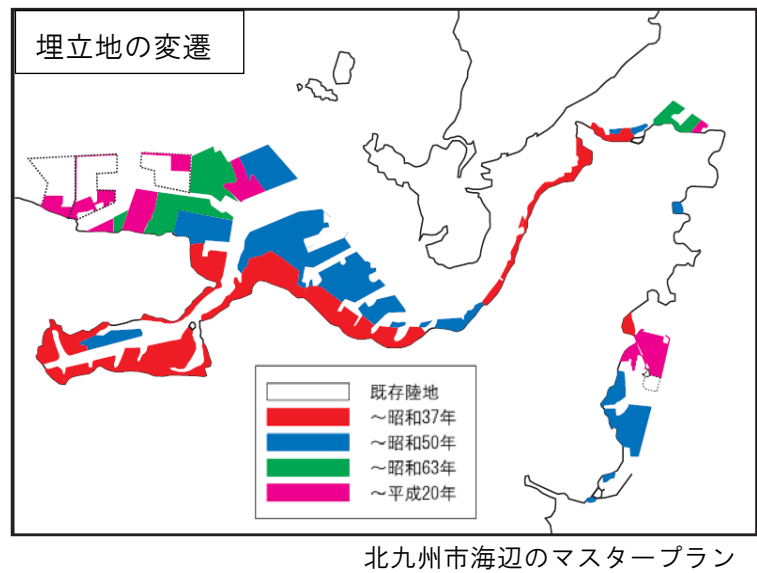
使用データ  
 土地利用分類図(明治期・昭和期)…土地履歴調査成果(土地利用分類図)  
 土地利用分類図(現在)…国土数値情報(土地利用細分メッシュ)  
 工業団地…国土数値情報(工業用地)  
 都市計画用途地域…国土数値情報(都市計画用途地域)

⚠️ **注意 ! 必読のこと!** 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。  
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

# 洞海湾と沖合の海面埋め立てによる市街地・工業用地の拡大



北九州市の近代化は、洞海湾の八幡地区への旧八幡製鉄所の建設に始まり、大正期までに洞海湾の内湾の埋め立てが急速に進展、三菱製鉄、東洋製鉄等の大規模製鉄工場が相次いで立地しました。



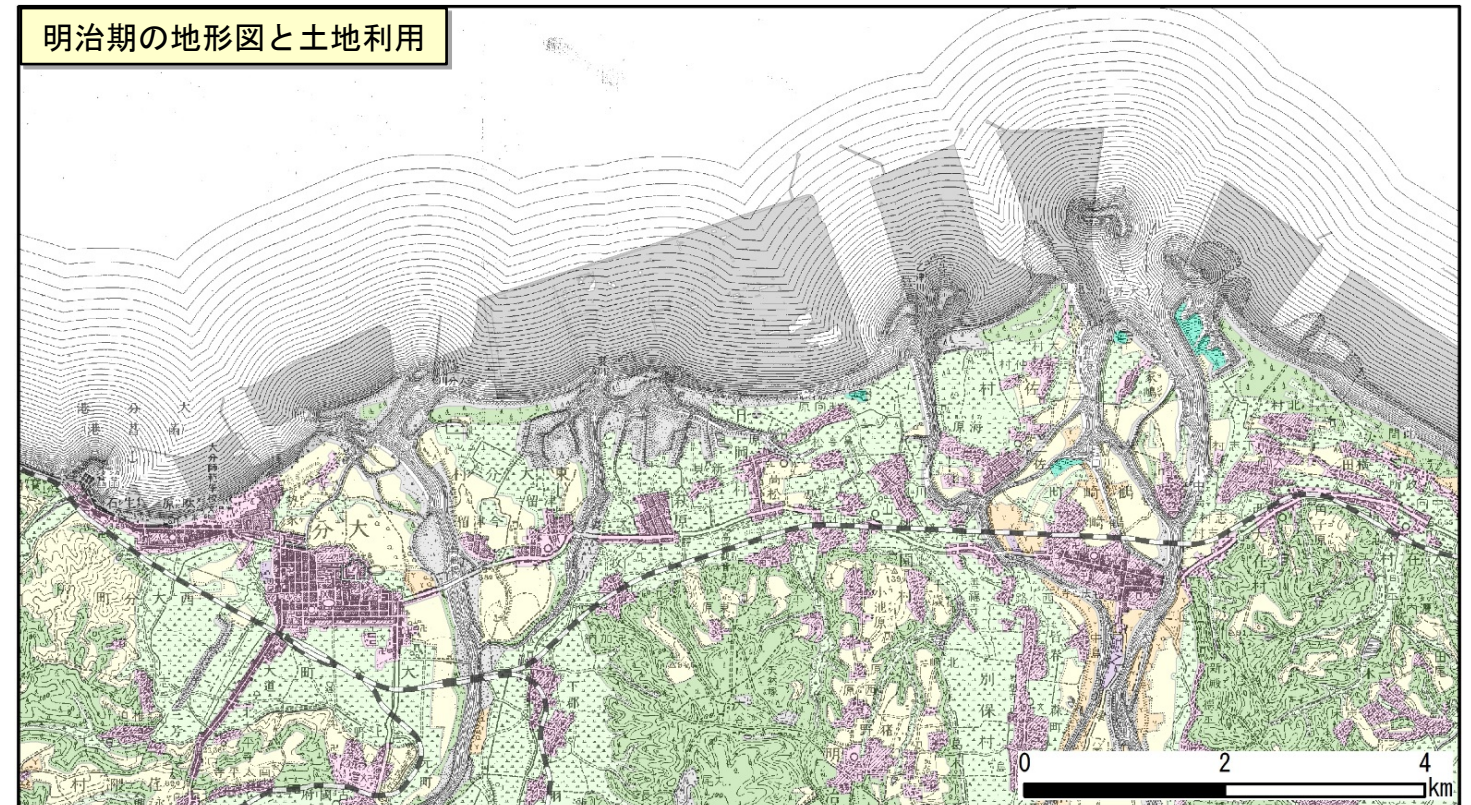
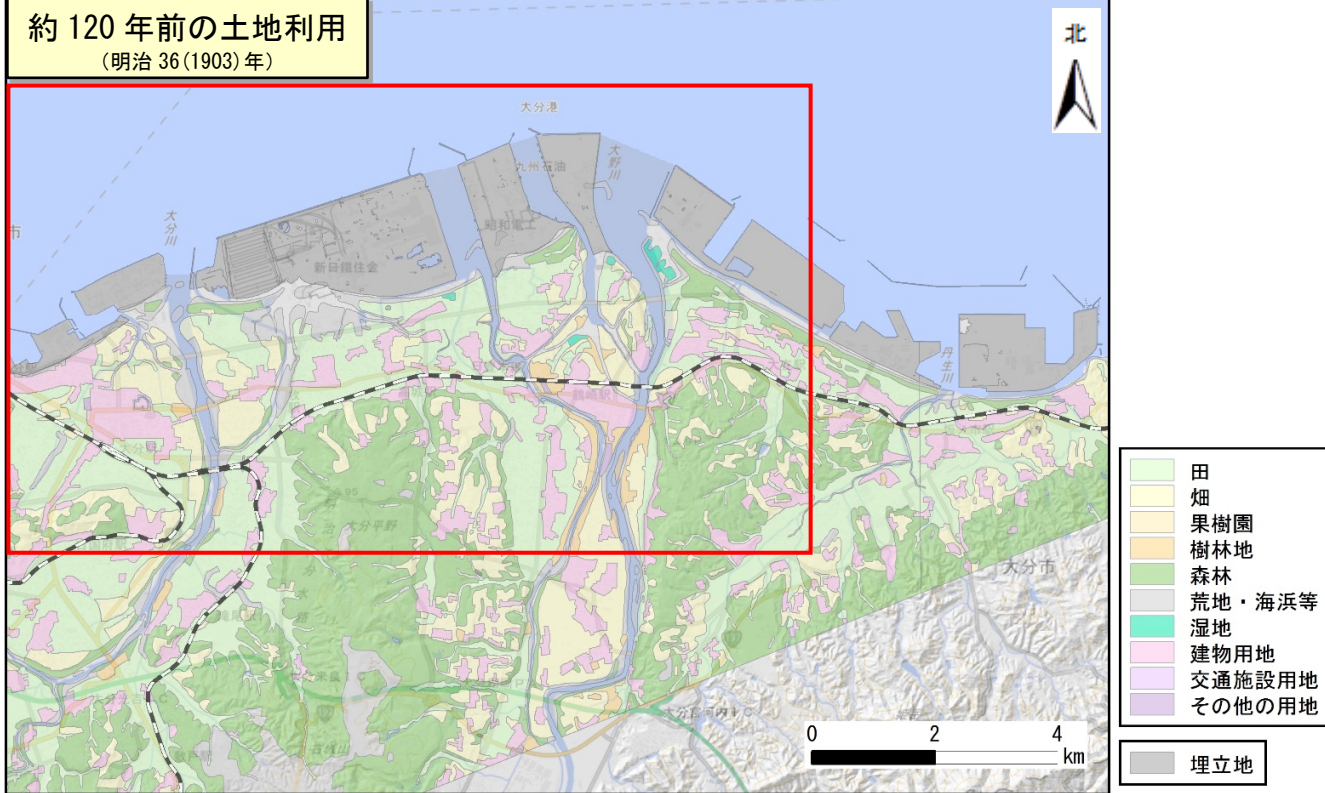
使用データ  
土地利用分類図(明治期・昭和期)…土地履歴調査成果(土地利用分類図)  
埋立地・変更工事中の区域…土地履歴調査成果(人工地形分類図)  
工業団地…国土数値情報(工業用地)

工業統計調査より

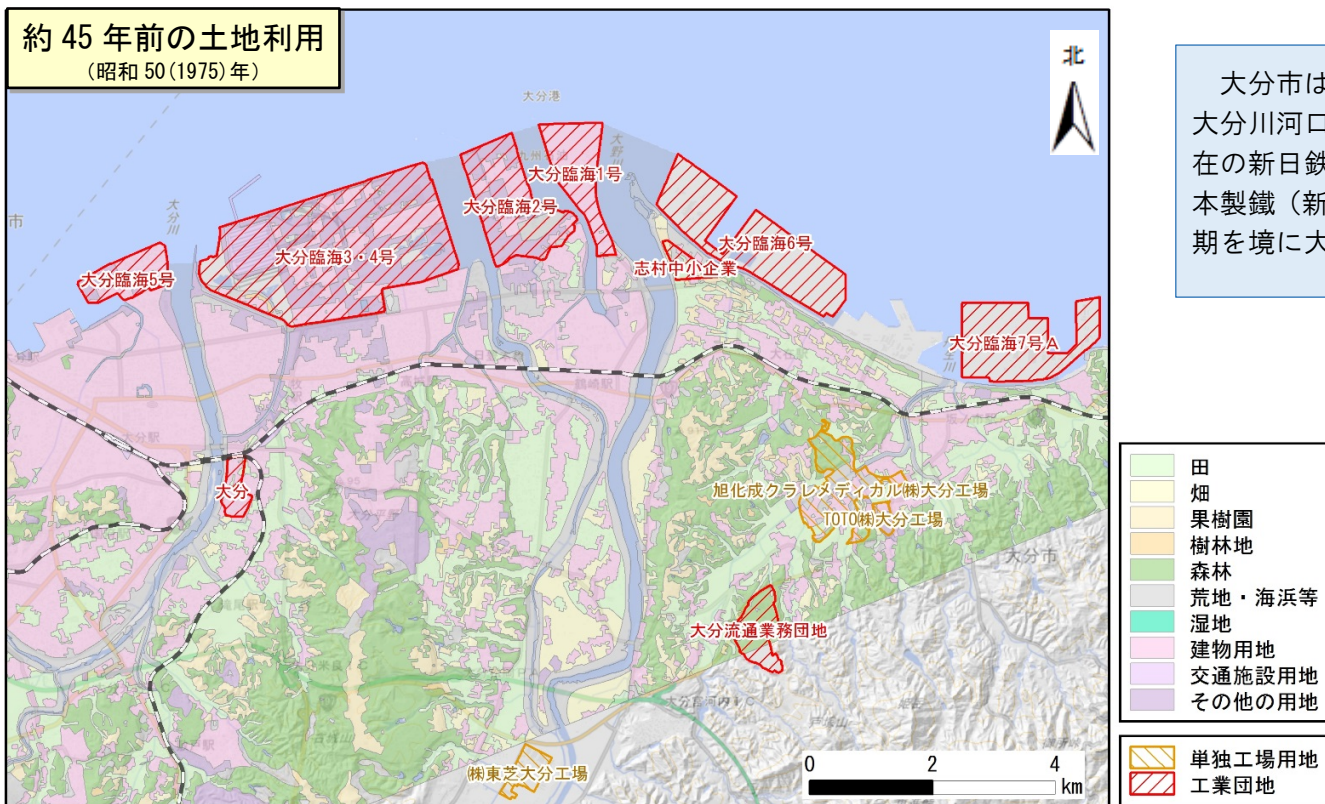


**注意 ! 必読のこと!** 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

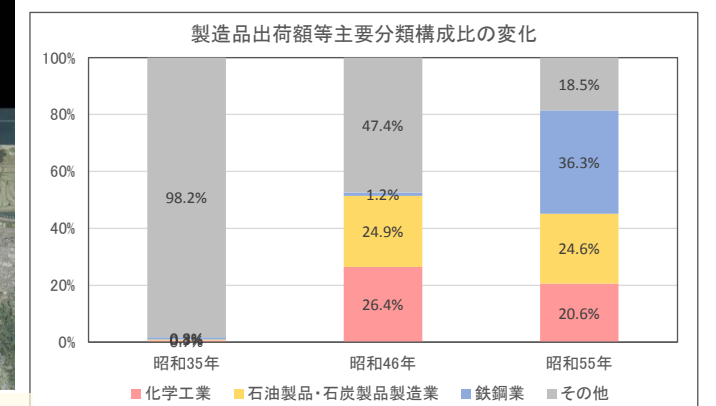
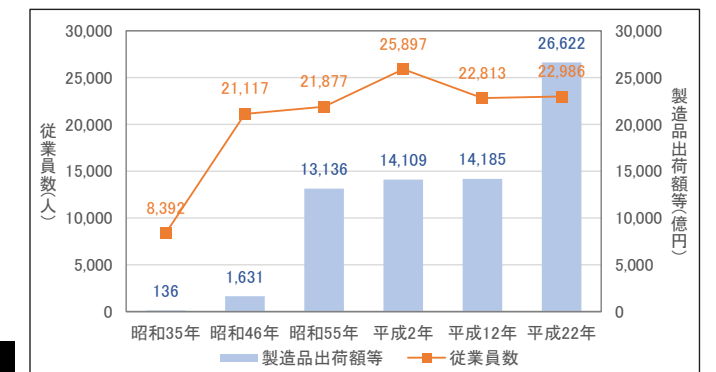
## 新産都市指定後の海面埋立と工場立地の進展



国土地理院発行の5万分1地形図(「大分」明治36(1903)年測図)を使用



大分市は、昭和 39 (1964) 年に新産業都市指定を受け、以後大野川、大分川河口部の沿岸の海面の大規模埋め立てが急速に進みました。現在の新日鉄住金大分製鉄所は、八幡製鐵・富士製鐵の合併による新日本製鐵(新日鉄)発足翌年の昭和 46 (1971) 年に操業を開始、この時期を境に大分市の工業出荷額が大幅な伸びを示しています。



工業統計調査より

使用データ  
土地利用分類図(明治期・昭和期)…土地履歴調査成果(土地利用分類図)  
埋立地…土地履歴調査成果(人工地形分類図)  
工業団地…国土数値情報(工業用地)

**注意 ! 必読のこと!** 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。





## 2. 地域別の土地履歴の概要

山口・防府，北九州・福岡，大分・別府地区

土地履歴調査成果の GIS データや、関係機関から公開されている GIS データ等を利用して、各調査地区の中からモデル的な地域を選び、地域の土地の履歴の概要を自然地形、人工地形、過去から現在までの土地利用の変遷がわかる地図を作成しました。本編は、それらと比較することで、明治期以降現在までの地域の土地の状況の変遷（土地履歴）について簡単な解説を加えたものです。  
この資料の例に限らず、土地履歴調査成果の地図や GIS データ等は、さまざまな利用が可能となっています。

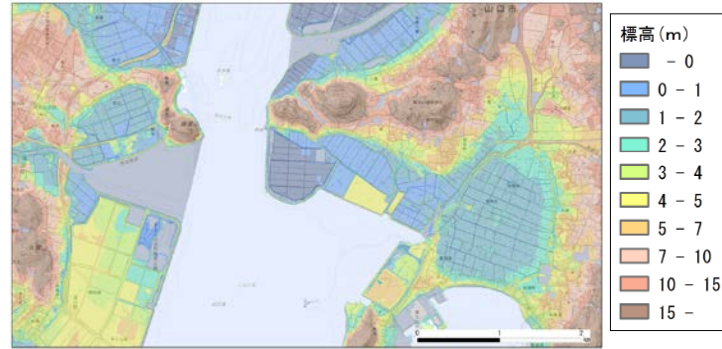
1. 遠浅の海岸の干拓によって広がった「開作(干拓地)」

2. 干拓地の農地や塩田から大規模臨海工業団地へ

榎野川河口部は、かつては潮汐平地と呼ばれる遠浅の海が沖合まで広がっていました。そうした土地に、主に近世以降塩田や農地の開墾が進められ、現在も海辺の干拓地に農地が広がっています。

地図からもわかるように、昭和に入っても干拓地は拡張され、幸崎地区や阿知須地区の干拓は1960年代に完成しました。

干拓地は、堤防に囲まれた低い土地をそのまま利用しているため、高潮の影響を受けやすい土地です。作付けの転換等のため、近年は土地を盛土し畑作利用される農地がみられます。



地盤高分布図

佐波川左岸にある防府市街地の南部は、榎野川河口部と同様に塩田や干拓地の農地が近世以降整備されました。中でも防府は近代まで製塩が盛んに行われ、内陸側の干拓地の地先には広く塩田が分布していました。

その中で昭和35(1960)年以降、イオン交換膜による機械製塩への転換が進み、瀬戸内海の各地に広くみられた塩田はこの時期に廃止されました。

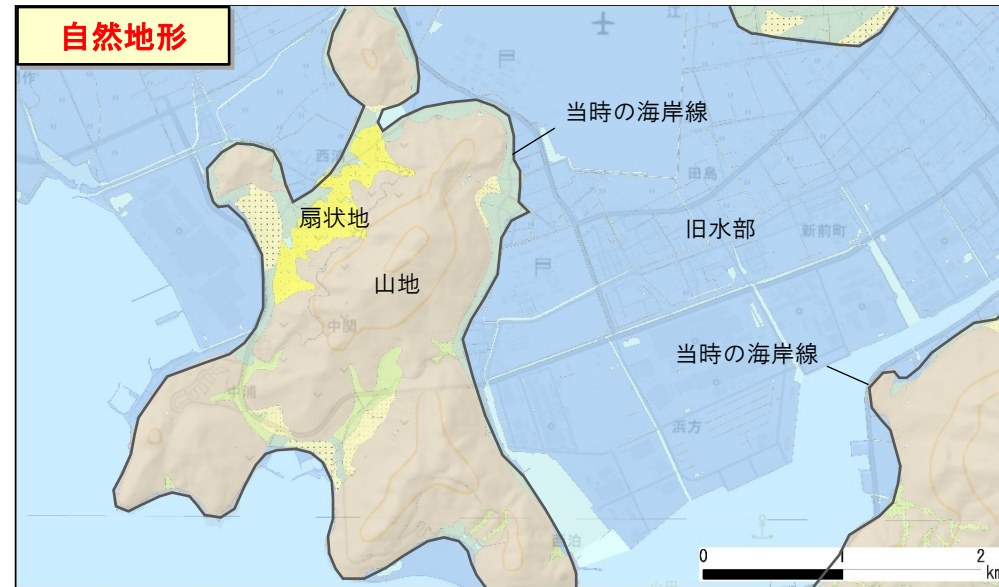
1964年の工業整備特別地域指定後、企業誘致を進めていた防府市の沿岸部では、塩田廃止後の中関地区・西浦地区に、東洋工業(現：マツダ)等が進出し、関連工場等の立地が急速に進みました。



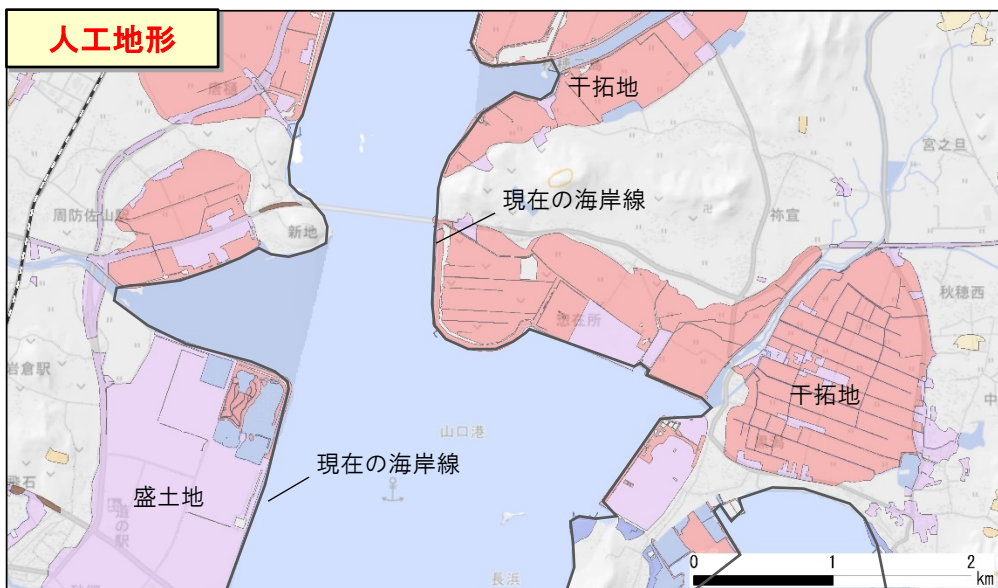
地盤高分布図



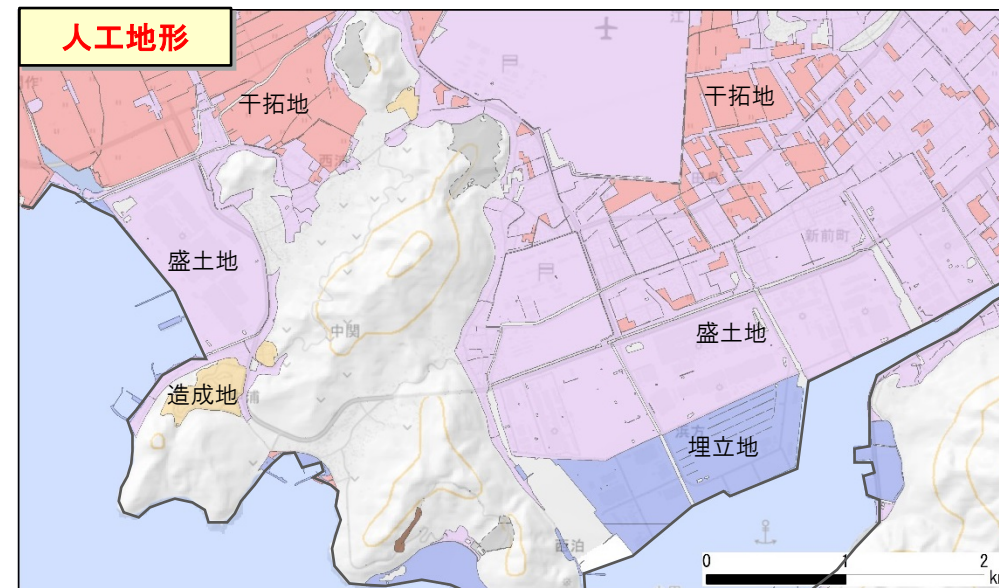
<自然地形>  
・海岸沿いまで山地や台地がせまり、低地はごく限られた範囲でした。  
・現在の海岸線まで遠浅の海(旧水部)が広がっていました。



<自然地形>  
・防府市街地南部には遠浅の海(旧水部)が広がり、沖合には島が浮かんでいました。  
・島の海岸線は山地にせまり、低地はほとんどありませんでした。



<人工地形>  
・遠浅の地形を活かした干拓事業が進められ、沖合まで干拓地が広がりました。



<人工地形>  
・遠浅の地形を活かした干拓事業が進められ、沖合まで干拓地が広がりました。  
・干拓地への盛土や埋立事業により、沿岸部には工業用地が広がっています。

⚠️ 注意 ! 必読のこと! 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

1. 遠浅の海岸の干拓によって広がった「開作(干拓地)」

2. 干拓地の農地や塩田から大規模臨海工業団地へ



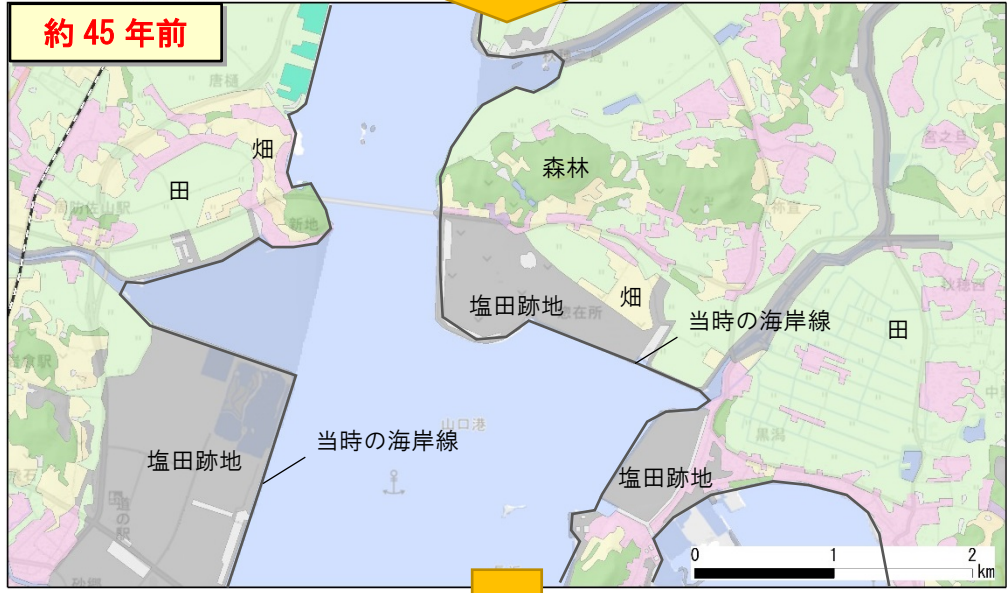
<約 120 年前>

- ・ 低地や干拓地は田や畑の農地として利用されていました。
- ・ 海岸沿いの一部では、塩田に利用されていました。



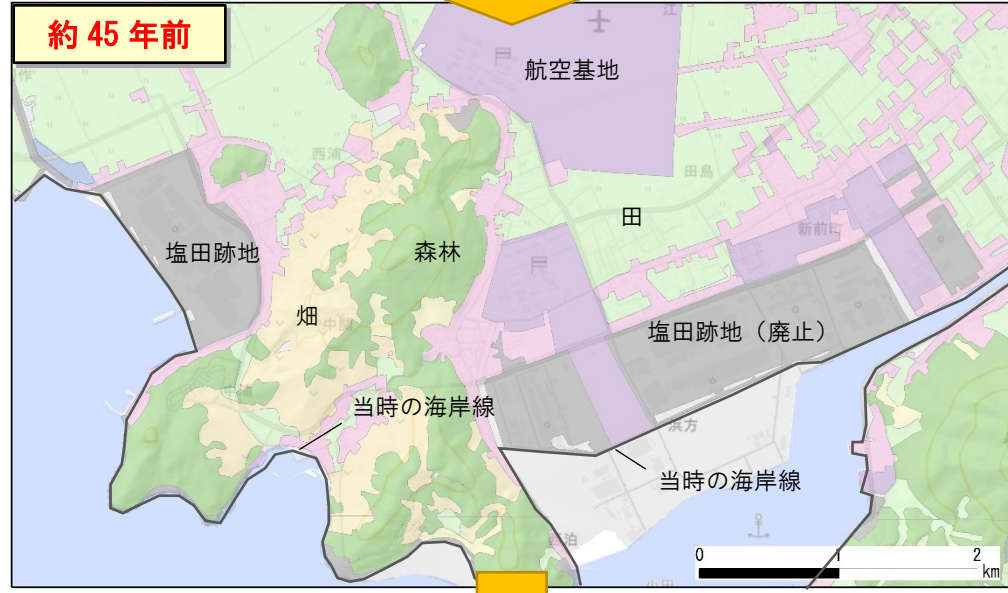
<約 120 年前>

- ・ 干拓地は、内陸側はほとんど農地として利用されていました。
- ・ 海岸近くでは、塩田が広がっていました。



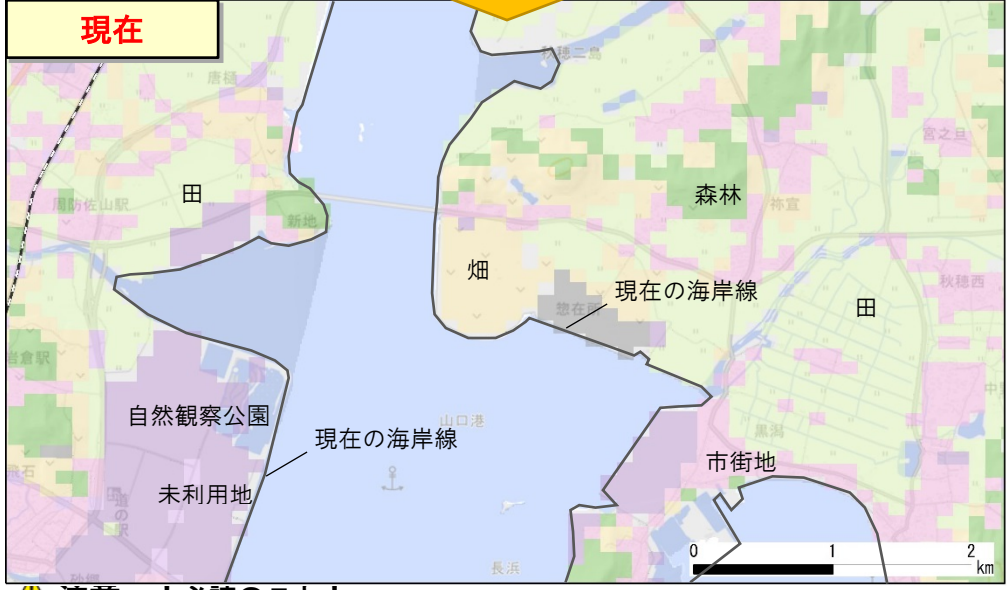
<約 45 年前>

- ・ 低地や干拓地は、引き続き田や畑の農地として利用されていました。
- ・ 海岸沿いの塩田はすでに廃止され、農地や工業用地への転換途中でした。
- ・ 森林の一部は畑へと転換されました。



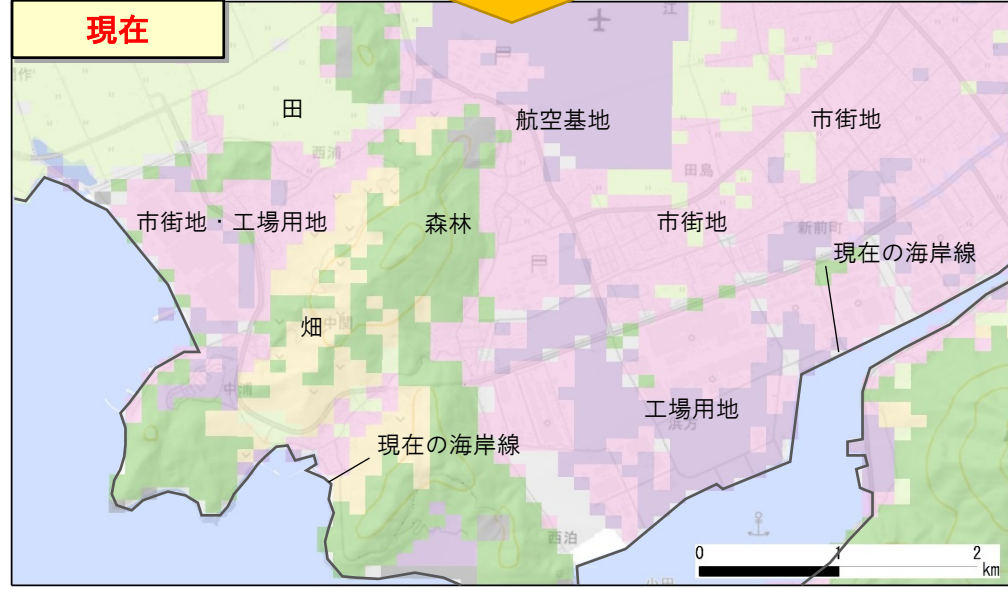
<約 45 年前>

- ・ 内陸側の農地は市街地への転換が進んだほか、自衛隊基地へと転換されました。
- ・ 海岸沿いの塩田はすでに廃止され、工業用地等への転換途中でした。
- ・ 森林の一部は畑へと転換されました。



<現在>

- ・ 沿岸部は農地や、工業用地、公園等に転換されました。
- ・ 市街地・集落地の範囲はそれほど変化がなく、干拓地は引き続き農地として利用されています。



<現在>

- ・ 沿岸部は市街地や工業用地に転換されました。
- ・ 防府市街地南部は市街化が進み、農地(田)が大きく減少しています。

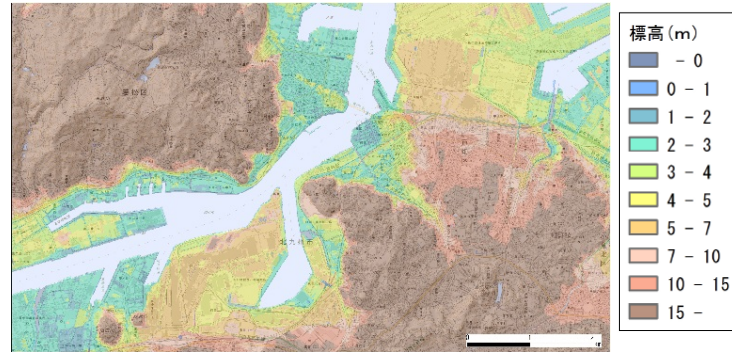
⚠️ 注意 ! 必読のこと ! 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

3. 内湾の埋立により大規模臨海工業地区へ

洞海湾口から響灘にかけての沿岸部は、1901（明治 34）年に官営八幡製鉄所が八幡に開設されて以来、北九州工業地帯の発達とともに早くから埋立てが進み、北九州港の一部を占める下図の範囲は既に昭和 40 年代までに現在の土地の区域まで埋立てが完了しています。

若松・戸畑の旧市街地は、湾口を閉塞するように分布する砂州上に位置しており、この部分のみかつての地形が一部残っていますが、その他の区域は埋め立てにより直線的な形状の海岸線となっています。かつては工場廃水により「死の海」と呼ばれていましたが、市民・企業・行政が一体となった取り組みにより、環境改善・再生が進んでいます。



地盤高分布図

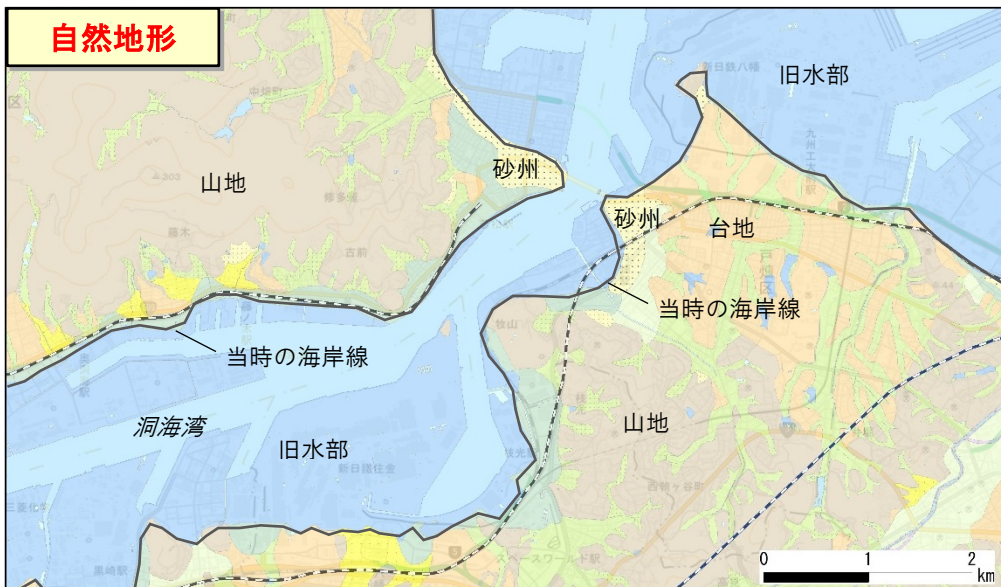
4. 博多湾の埋立・内陸の造成により商業・工業都市へ

福岡の中心市街地周辺は、北側の博多湾に沿って幅の広い砂州が連続して分布しており、その海側には、現在埋立地が連続しています。

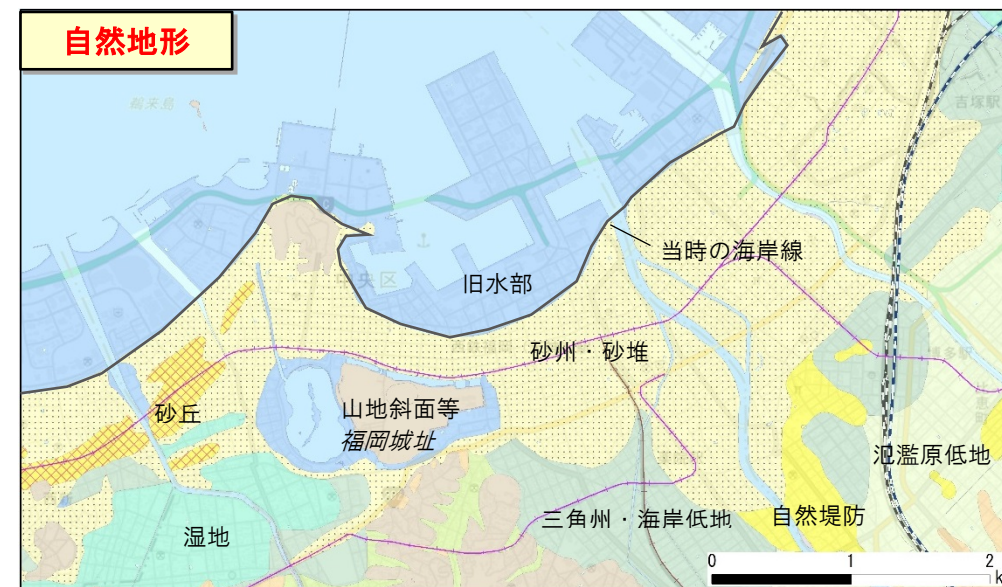
市街地が発達する沖積低地は、博多湾に注ぐ多々良川、御笠川、那珂川、樋井川、室見川の各河川によって形成された氾濫原低地、三角州が広がっています。博多湾岸の今津～香椎間では、砂州を覆って砂丘が断続的に分布し、砂丘の海側の高まりには「元寇防塁」の遺構が残されています。その位置から当時の海岸線が推定でき、現在の海岸線が埋立てにより北側に前進していることが分かります。



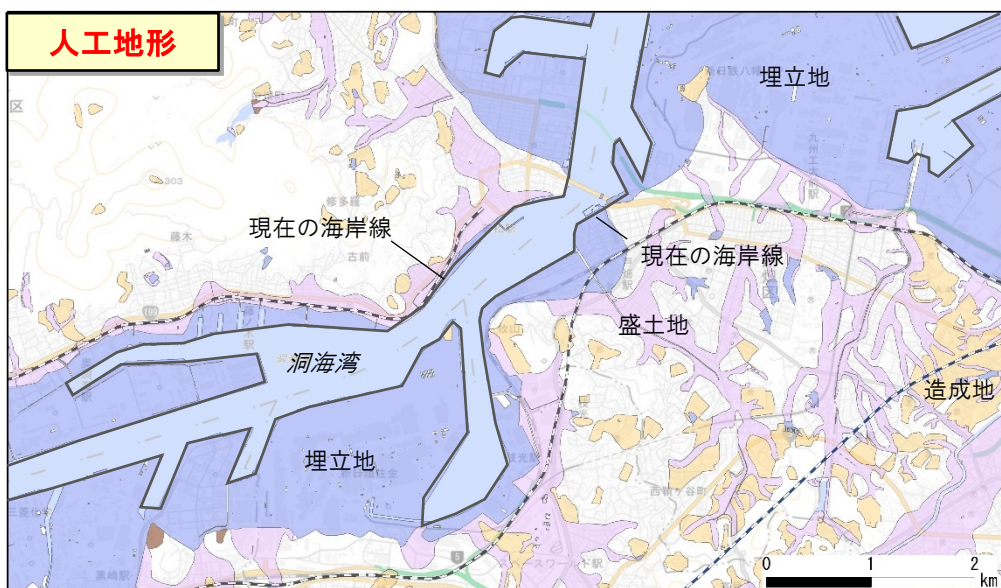
地盤高分布図



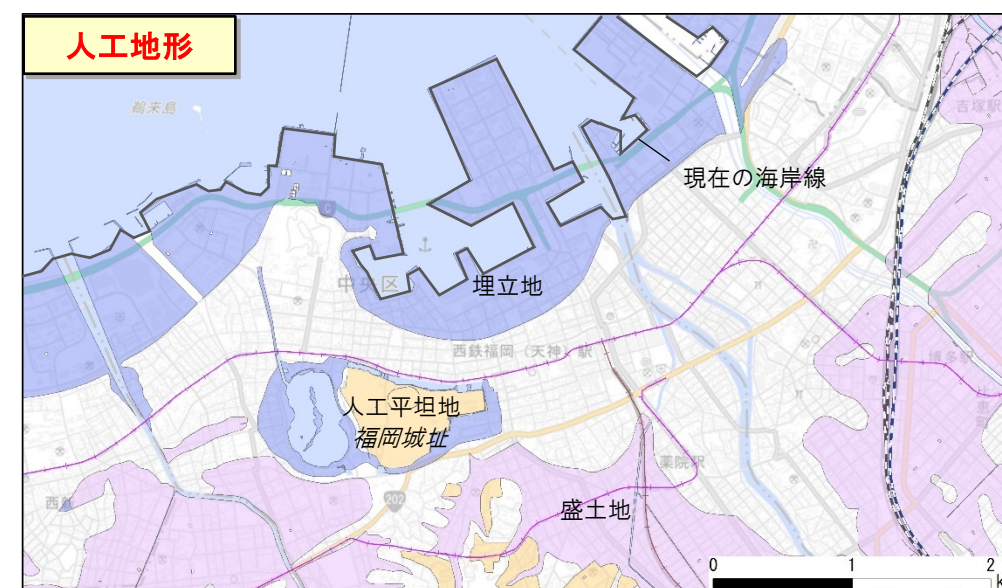
〈自然地形〉  
 ・海岸沿いまで山地や台地がせまり、低地はごく限られた範囲でした。  
 ・洞海湾には海面部分（旧水部）が広がっていました。



〈自然地形〉  
 ・海岸沿いには砂州・砂堆が広がり、一部で砂丘ののっています。  
 ・砂州・砂堆の背後には三角州・海岸低地や湿地などの低湿地が広がっています。



〈人工地形〉  
 ・遠浅の地形を活かした埋立事業が進められ、洞海湾の広い範囲が埋立地となりました。  
 ・山地や台地内の低地部ではほとんど盛土がされ、山地には造成地が点在しています。



〈人工地形〉  
 ・海に向かって埋立事業が進められ、現在の海岸線は沖合まで進みました。  
 ・三角州・海岸低地や湿地はほとんど盛土され、元の地形が分かりにくくなっています。  
 ・福岡城は、山地が平坦化されてできたことが分かります。

⚠️ 注意 ! 必読のこと! 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した（承認番号 平 29 情使、第 177 号）。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 5 万分の 1 地形図、2 万 5 千分の 1 地形図及び電子地形図（タイル）を複製したものである（承認番号 平成 29 情複、第 191 号）。

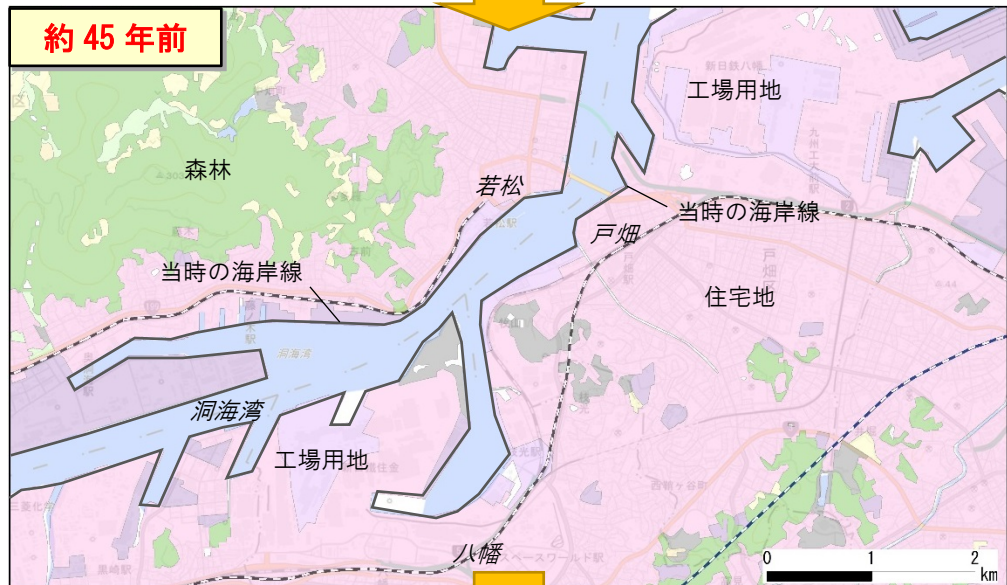
3. 内湾の埋立により大規模臨海工業地区へ

4. 博多湾の埋立・内陸の造成により商業・工業都市へ



<約120年前>

- ・山地のほとんどは森林として利用され、台地は田や畑の農地として利用されていました。
- ・市街地は、若松、戸畑、八幡にまとまっていたほかは、集落が農地内に点在していました。



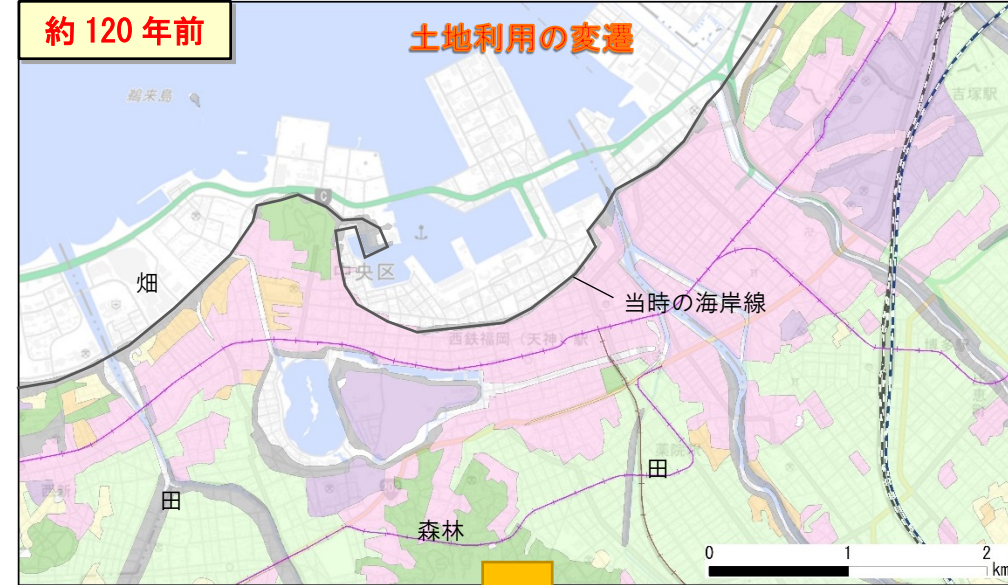
<約45年前>

- ・洞海湾東側では、森林や農地（田、畑）がほとんど市街地に転換し、住宅地や工場用地として利用されていました。
- ・洞海湾では埋立てが進み、工業用地として利用されていました。



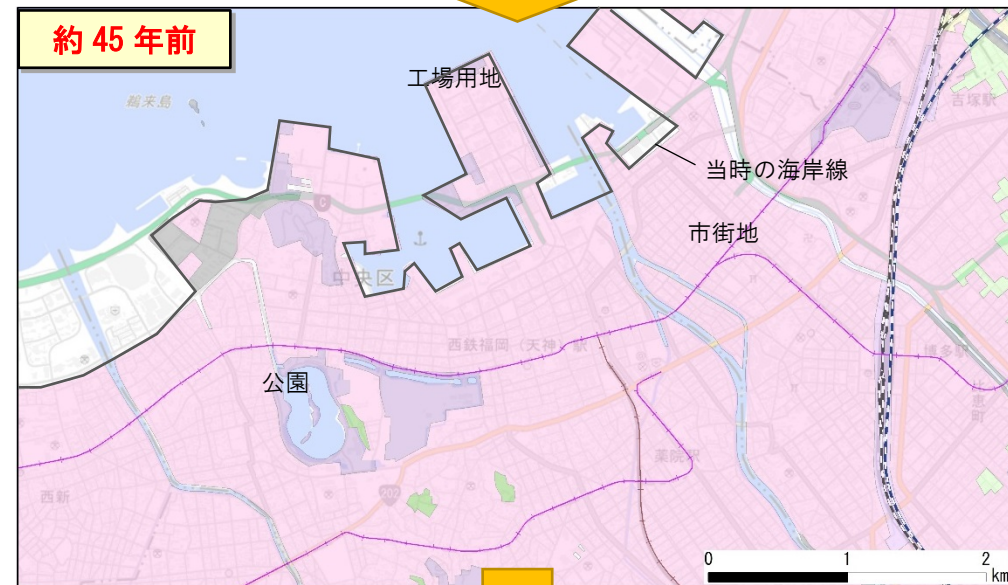
<現在>

- ・約45年前と大きな変化はありませんが、洞海湾西側の森林が減少し、市街地へ転換されています。



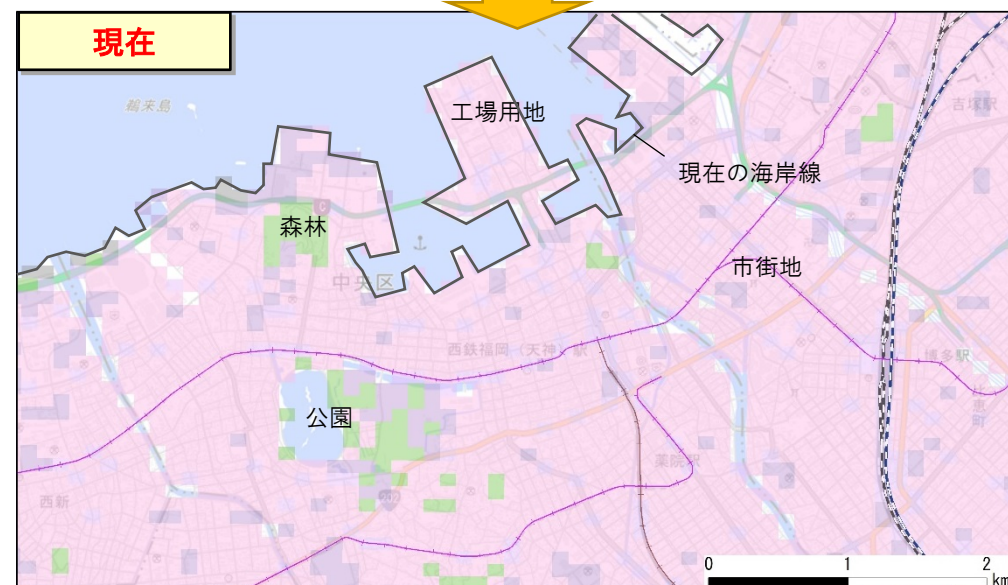
<約120年前>

- ・砂州・砂堆上が市街地として利用されていました。
- ・三角州・海岸低地や湿地は田として利用されていました。



<約45年前>

- ・市街地が拡大し、低湿地にあった田が住宅地等に転換されています。
- ・海岸部では埋立てが進み、工業用地として利用されていました。



<現在>

- ・低地は全体が市街地に転換されています。
- ・海岸部での埋立地が拡大しています。

**注意 ! 必読のこと!** 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

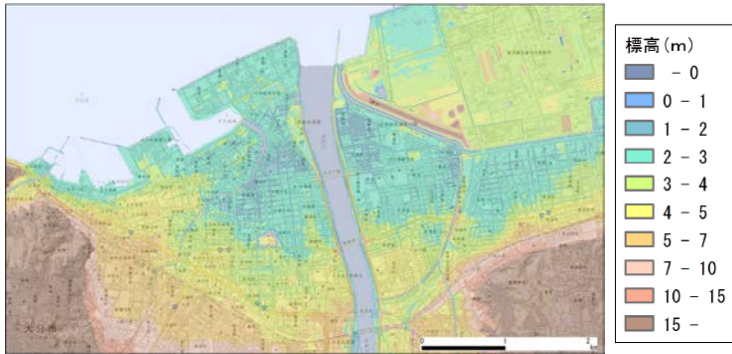
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した（承認番号 平 29 情使、第 177 号）。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図（タイル）を複製したものである（承認番号 平成 29 情複、第 191 号）。

5. 沖合埋立により消えた浜辺と大規模工場の進出

大分(府内城下)や鶴崎の旧市街は、大分川や大野川の河岸に近い三角州上に位置しており、以前から河川の洪水氾濫時には浸水の影響を受けてきました。市街化が進んだ現在も、網状の形状をもつ旧河道が認められます。

三角州の前面は、緩やかに弧を描く砂州や海浜でしたが、新産業都市の指定を受けた1960年代以降、急速に海面の埋立てが進み、海とともにあった地域の暮らしは大きく変貌しました。

工業用地の拡大に合わせて、市内南部の丘陵地を中心に大規模な住宅団地が造成され、森林の緑に覆われた丘陵地の多くは、地形の改変と急激な土地利用の変化により一変しました。



地盤高分布図

6. 火山麓扇状地の歴史ある温泉保養地から国際観光都市へ

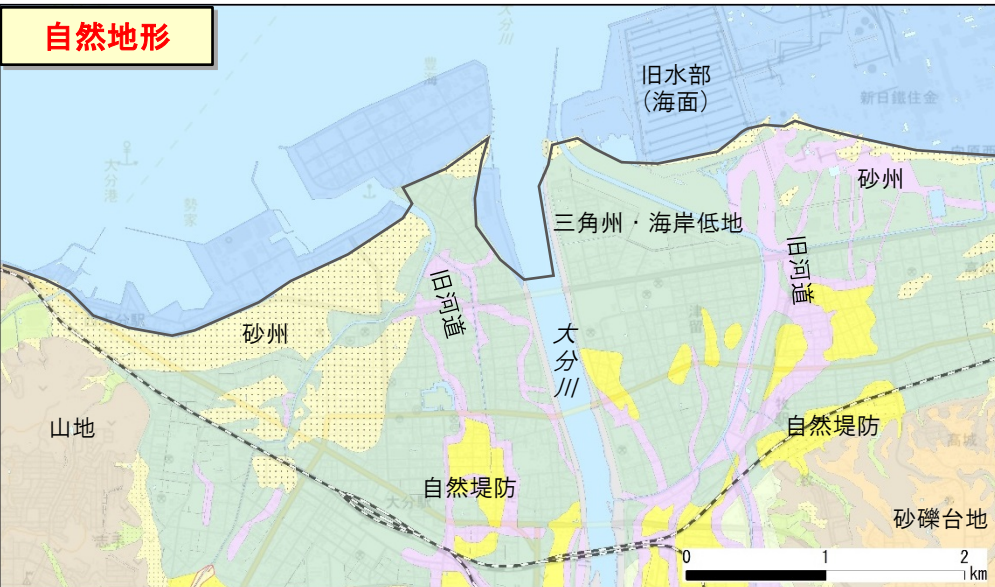
別府の市街地は、鶴見岳、大平山などの火山山地から大量の土砂が供給された扇状地上に位置しており、境川、春木川沿いなどでは天井川となっています。

扇状地は緩やかな勾配を有して、扇端は海岸まで達しており、その北縁を鉄輪断層、南縁を朝見川断層系により挟まれた場所に形成されています。

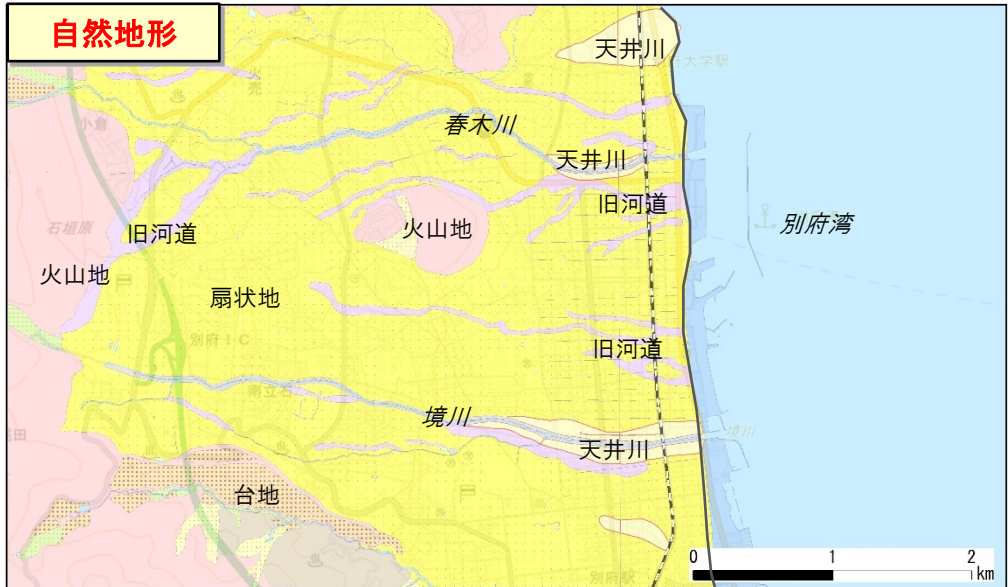
火山性温泉である別府温泉は、泉温が高く多様な泉質のあることが特徴で、鶴見火山群の地下深部に存在する熱源と化学成分が、雨水を起源とする地下水に混ざり、別府市街地周辺の各地に温泉の恵みをもたらしています。



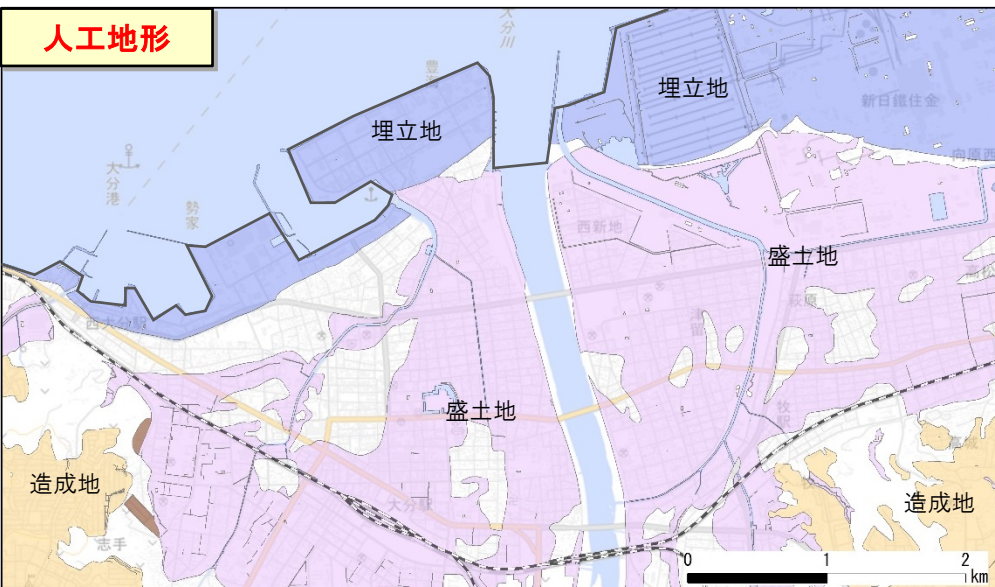
地盤高分布図



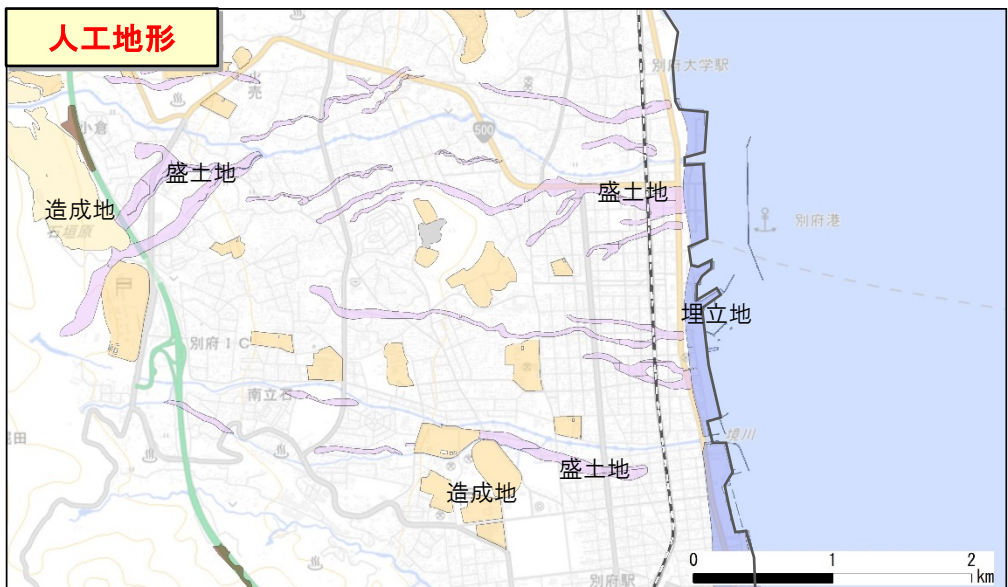
- <自然地形>
- ・大分川の河口付近に、三角州・海岸低地が広がっています。
  - ・低地内には、自然堤防や旧河道があり、氾濫の様子をうかがい知ることができます。



- <自然地形>
- ・東側の火山地から別府湾に向かって扇状地が広がっています。
  - ・扇状地内に旧河道がみられるほか、河川沿いでは天井川となっています。



- <人工地形>
- ・海に向かって埋立事業が進められ、現在の海岸線は沖合まで進みました。
  - ・三角州・海岸低地や旧河道などの比較的低い土地では、ほとんどで盛土がなされています。



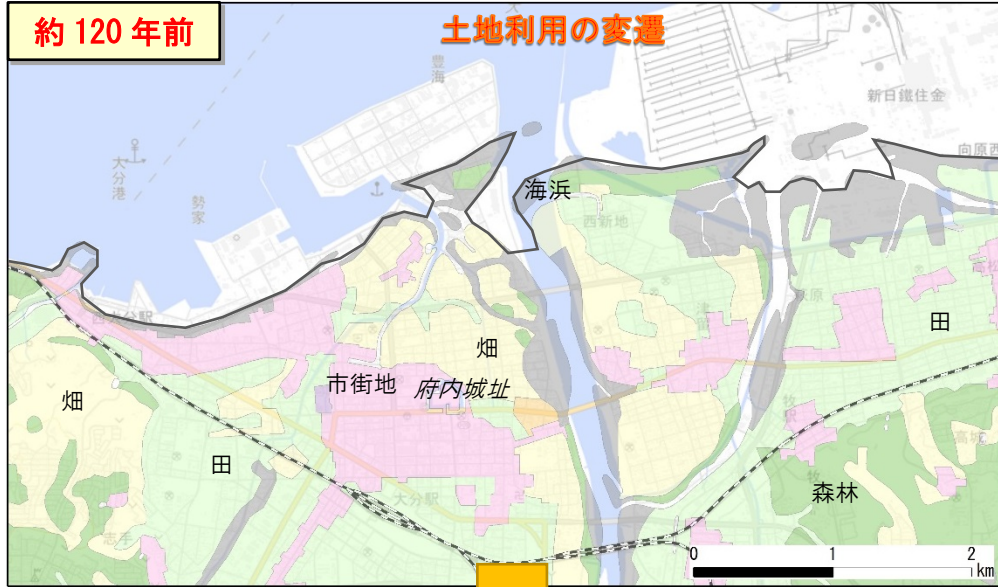
- <人工地形>
- ・旧河道はほとんどが盛土され、元の地形が分かりにくくなっています。
  - ・扇状地内に造成地が点在しています。

⚠️ 注意 ! 必読のこと! 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した(承認番号 平 29 情使、第 177 号)。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図(タイル)を複製したものである(承認番号 平成 29 情複、第 191 号)。

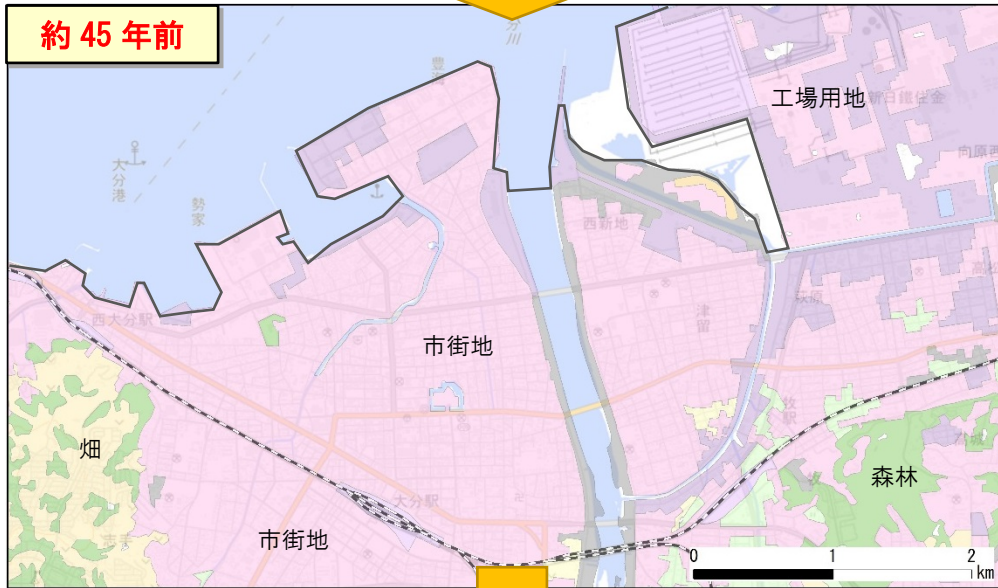
5. 沖合埋立により消えた浜辺と大規模工場の進出

6. 火山麓扇状地の歴史のある温泉保養地から国際観光都市へ



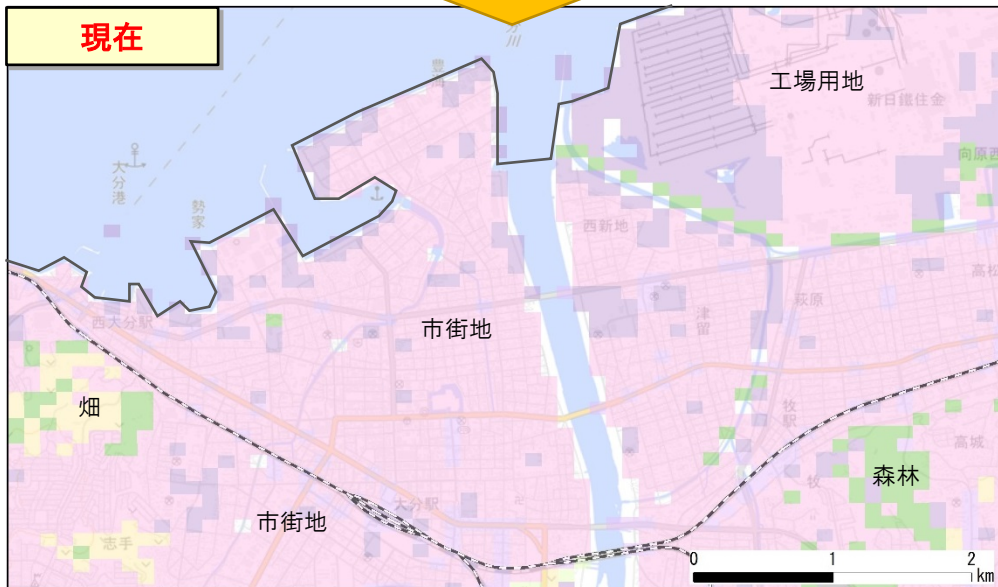
〈約120年前〉

- ・府内城址（大分城址）周辺に市街地が形成されていたほか、自然堤防を利用して集落が点在していました。
- ・三角州・海岸低地は、田、畑として利用されていました。



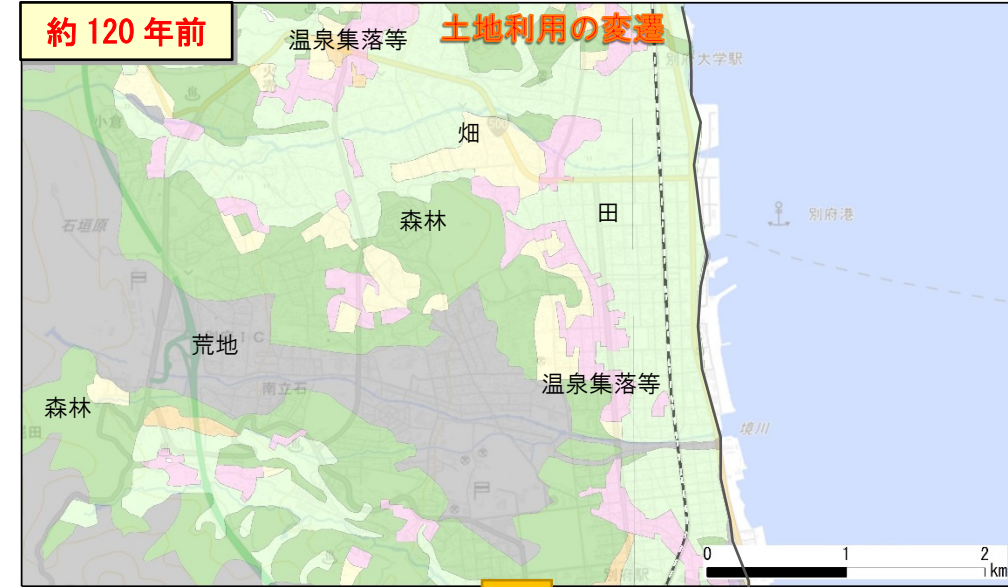
〈約45年前〉

- ・市街地が拡大し、低地部ではほとんどが、住宅地、工業用地などとして利用されていました。
- ・市街地西部の山地には、まだ畑や森林が残っていました。



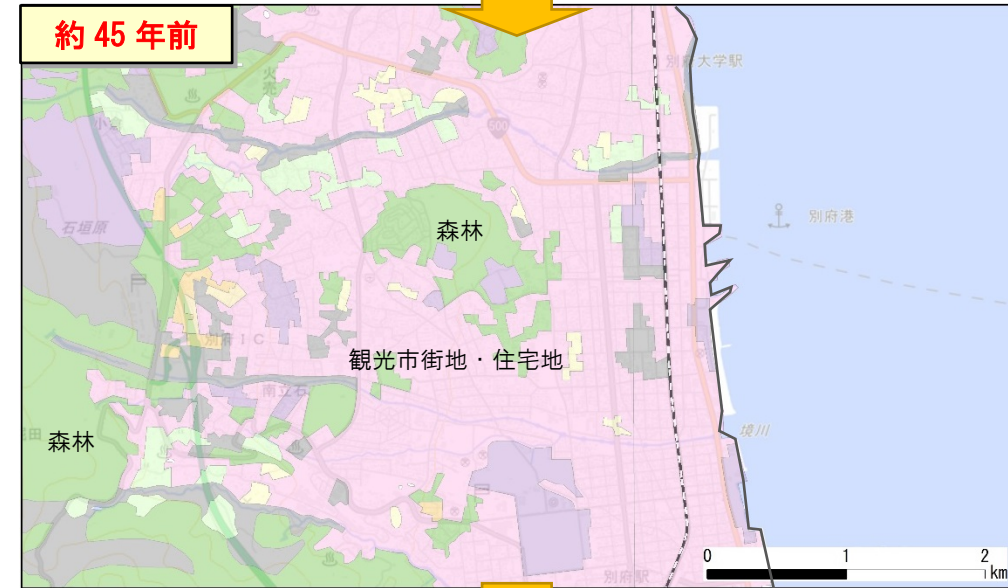
〈現在〉

- ・約45年前と大きな変化はありませんが、市街地内に残っていた田、畑もすべて市街地に転換されています。
- ・市街地西部も市街化が進み、畑は少なくなっています。



〈約120年前〉

- ・扇状地上は、荒地や森林が多く、海岸近くでは田が広がっていました。
- ・まとまった市街地はなく、温泉集落等が点在していました。



〈約45年前〉

- ・低地部では市街地が拡大し、田や森林、荒地が減少しています。
- ・市街地周辺の火山地には森林・荒地が残っていました。



〈現在〉

- ・約45年前と比べて、市街地内の田、畑や森林は減少し、住宅地などへの転換が進んでいます。
- ・市街地周辺の火山地は、現在でも森林・荒地が残っています。

⚠️ 注意！ 必読のこと！ 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

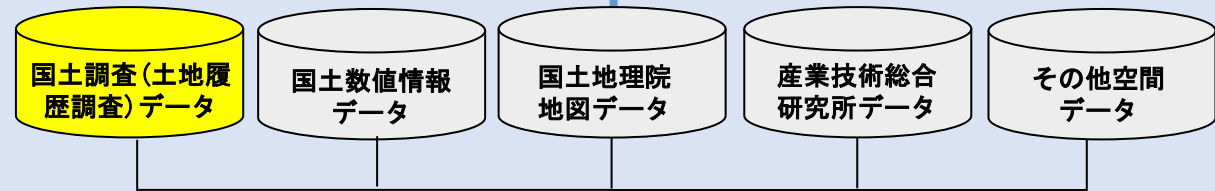
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した（承認番号 平 29 情使、第 177 号）。この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、2万5千分の1地形図及び電子地形図（タイル）を複製したものである（承認番号 平成 29 情複、第 191 号）。

では、どうやって活用するのでしょうか — 利活用のロードマップ

利活用先をきめる

- ①都市計画・地域計画
- ②地域防災計画
- ③環境保全
- ④観光情報
- ⑤学習教材
- ⑥地方創生の検討

データの収集



GISによる加工



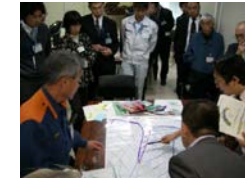
住民の利用シーンとしては

アウトプット例



①都市計画・地域計画への活用

- ・安全な地域への施設の誘導
- ・用途地域変更等の検討資料
- ・重要施設の立地選定
- ・都市計画手続きなどの行政事務の効率化
- など



②地域防災計画・避難訓練への活用

- ・避難行動要支援者の避難計画立案
- ・防災訓練等での図上訓練
- ・地域住民への防災意識向上のための資料
- ・適切な避難所等の選定
- など



③環境や文化財保全への活用

- ・景観保護等の検討資料
- ・アセスメント調査への利活用
- ・モニタリングのデータベース
- など



④観光情報・歴史的資料の発掘

- ・まちづくりへの利活用
- ・景観や風光明媚な場所の発見
- ・観光客への情報発信
- ・観光資源の情報提供
- など



⑤学習教材への活用

- ・ハザードマップ等による防災教育
- ・通学路の危険な地点の周知
- ・地域学習での利活用
- ・避難場所・避難路の確認
- など



⑥地方創生への寄与

- ・地域の特性を生かした産業立地
- ・エリアマーケティングでの活用
- ・福祉施設(バリアフリー等)の位置情報提供
- など



インターネットでデータ入手

- 国土交通省 国土政策局 国土情報課  
<http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download/>  
あるいは『土地履歴調査』でネット検索
- 国土地理院(災害関連) <http://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>
- 産業技術総合研究所(地質調査総合センター) <https://www.gsj.jp/> など

⚠️ 注意 ! 必読のこと! 本資料中の解説は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。



## 【凡例の解説】

### 自然地形分類

分類	解説	
山地斜面	山地斜面等	山地・丘陵地の斜面や台地縁辺の斜面等をいう。海岸の磯や岩礁、離れ岩等を含む。
	火山地斜面等	第四紀火山噴出物からなる火山地または火山丘陵地の斜面等をいう。火砕流や溶岩の堆積地、火山体の開析により形成される火山麓扇状地または泥流堆積地等の火山麓地を含む。
	麓層面及び崖錐	斜面の下方に生じた岩層または風化土からなる堆積地形。
	土石流堆積地	岩塊、泥土等が水を含んで急速に移動、堆積して生じた地形で、溪床または谷の出口にあるもの。
台地	岩石台地	地表の平坦な台状または段丘状の地域で、基盤岩が出ているかまたはきわめて薄い未固結堆積物でおおわれているもの。隆起サンゴ礁台地を含む。
	砂礫台地（更新世段丘）	更新世 <sup>※1</sup> に形成された、地表の平坦な台状または段丘状の地域で、表層が厚く、且つ未固結の砂礫層からなるもの。
	砂礫台地（完新世段丘）	完新世 <sup>※2</sup> に形成された、地表の平坦な台状または段丘状の地域で、形成時期が新しく、未固結の砂礫層からなるもの。
	ローム台地	地表の平坦な台状または段丘状の地域で、表層が厚いローム層（火山灰質粘性土）からなるもの。
低地	扇状地	山麓部にあって、主として砂や礫からなる扇状の堆積地域。
	緩扇状地	傾斜の緩やかな扇状地。
	谷底低地	山地、丘陵地、台地を刻む河川の堆積作用が及ぶ狭長な平坦地。いわゆる「谷底」。
	氾濫原低地	扇状地と三角州・海岸低地の中間に位置し、河川の堆積作用により形成された広く開けた平坦地で、自然堤防、旧河道または湿地を除く低地。
	自然堤防	河川により運搬されたシルト～中粒砂が、河道及び旧河道沿いに細長く堆積して形成された微高地。
	旧河道	過去の河川流路で、周囲の低地より低い帯状の凹地。
	湿地	自然堤防や、砂州等の後背に位置するため、河川の堆積作用が比較的及ばない沼沢性起源の低湿地。現況の湿地を含む。
	三角州・海岸低地	河口における河川の堆積作用で形成された低平地や、過去の浅海堆積面が海堆により陸化した平坦地。
	砂州・砂堆、礫州・礫堆	現在の海岸及び過去の海岸や湖岸付近にあって、波浪や沿岸流によってできた砂または礫からなる微高地。
	砂丘	風によって生じた、砂からなる波状の堆積地形。
	天井川及び天井川沿いの微高地	堤防設置によって周辺の地形面より高くなった河床及びこれに沿って形成された微高地。
河原・河川敷	現況の河原及び河川敷（低水敷・高水敷）をいい、堤内地の旧河原・旧河川敷を含む。	
浜	汀線付近の砂や礫で覆われた平坦地（砂浜及び礫浜）をいい、人工改変地内の旧浜を含む。	
水部	現水部	現況が海、または河川、水路、湖沼等の水部。干潟を含む。
	旧水部	過去の海または湖沼等で、現存しないもの。
副分類	崖	長く伸びる一連の急傾斜の自然斜面。
	凹地・浅い谷	細流や地下水の働きによって台地または扇状地等の表面に形成された凹地や浅い谷。

※1 更新世：約 258 万年前から約 11,700 年前までの期間      ※2 完新世：約 11,700 年前から現在までの期間

### 人工地形分類

大分類	小分類	解説
人工平坦化地 (切り盛り造成地)	宅地等	山地・丘陵地や台地等の斜面を切土または盛土により造成した平坦地や緩傾斜地のうち、主として住宅や工業団地等の造成によるもの。造成に伴って生じた人工斜面を含む。
	農地等	上記のうち、主に農地整備、ゴルフ場造成等によるもの。造成に伴って生じた人工斜面を含む。
	旧谷線	人工平坦化地内の山地・丘陵地にかつて存在した谷線。
改変工事中の区域		人工的な地形改変が進行している区域及び採石・採土場、採鉱地等及びその跡地。
盛土地		低地等に 0.5m 以上盛土して造成された土地。台地上の凹地・浅い谷部分の盛土地を含む。
埋立地		水部等を埋め立てして造成された土地。
干拓地		水部や干潟、湿地等を堤防で締め切り、排水することによって陸化した低い土地。
切土地		山地・丘陵地や台地等の斜面を人工的に切土して生じた平坦地及び急傾斜の人工斜面。

### 土地利用分類

分類	解説
田	水稲、い草などを栽培している田。季節により畑作物を栽培するものを含む。
沼田	泥が深く、ひざまでぬかるような田（この分類は明治期だけに適用）。
畑	麦・陸稲・野菜などを栽培する土地をいい、牧草地、芝地を含む。
果樹園	りんご・梨・桃・ブドウなどの果樹を栽培する土地。
樹木畑	桑、茶を栽培している土地。桐・はぜ・こうぞ・しゅろ等を栽培している畑を含む。
森林	高さ 2 m 以上の多年生植物の密生している地域。植林地においては樹高が 2 m 未満であっても森林とする。高さ 2 m 以下の竹、笹の密生している土地。
荒地・海浜等	自然の草地からなる土地及び露岩地、崩壊地、砂礫地などで植物に覆われていない土地。万年雪で覆われた土地を含む。
湿地	干上がった湖沼の跡などの排水の悪い土地で、雨期には水をたたえるところ。
建物用地	住宅や建物類似の構築物、商業・業務・工業・公共・流通・通信・各種の処理施設等に利用されている土地。
交通施設用地	鉄道、道路、空港などに利用されている土地。
その他の用地	空地、公園緑地、墓地、採石地、採鉱地、自衛隊などの特別な用途に利用されている土地。
水部	河川、湖沼、ため池等の内水面および海面や干潟。

### 災害履歴図の主な調査内容

以下の分類を参考に調査地域ごとに調査分類基準を定めています。

災害種別	主な調査内容
水害	・台風、集中豪雨、長雨、融雪等による洪水の浸水範囲 ・台風、集中豪雨、長雨、融雪等による堤防決壊箇所 ・高潮、異常潮位による浸水区域 ・高潮、異常潮位による破堤箇所 等
土砂災害	・斜面崩壊または崖くずれの発生範囲及び被害区域の分布 ・地すべりの発生範囲及び被害区域の分布 ・斜面崩壊等の発生によって生じた堰き止め（河道閉塞による湛水）等の状況と二次災害の発生範囲 ・土石流等が発生した溪流、土石流堆積物及び被害区域の分布 等
地震災害	・建築物の倒壊区域の範囲 ・土木構造物の損壊箇所 ・液状化による地割れや地盤変位、噴砂・噴泥等の発生範囲 ・地震に起因する斜面崩壊・地すべり等土砂災害の分布 ・地震断層の分布 ・地震に起因する火災等の二次災害分布 ・津波の遡上範囲及び遡上高 等
地盤沈下災害	・地盤沈下観測点、累年観測値 等
火山災害	・降灰・噴砂、溶岩流、火砕流、山体崩壊・岩屑なだれ、これらに起因する津波、火山泥流（土石流）等の分布 等

### 土地履歴調査 成果説明会

[山口・防府地区、北九州地区、福岡地区、大分・別府地区]  
**調査成果の利活用事例集**  
**テーマ別利活用事例・地域別の土地履歴の概要**  
 作成 平成 28 年 11 月

問合せ先

(受託者) 株式会社パスコ 中央事業部

(委託元) 国土交通省 国土政策局 国土情報課 国土調査担当